研究ノート

越後妻有大地の芸術祭と ソーシャル・キャピタルに関する調査研究[1]

鷲　見　英　司[2]

1. はじめに

1 章では，大地の芸術祭と開催地の状況，および本稿の目的を明らかにする．そのため，1-1 節では大地の芸術祭のこれまでの開催状況と財政面の状況等の概要を，1-2 節では大地の芸術祭の開催地でアンケート調査の対象地域である十日町市の人口，世帯，および高齢化の状況と将来予測を，1-3 節では本稿の目的を述べる．

1-1. 大地の芸術祭について

「越後妻有アートトリエンナーレ大地の芸術祭」（以下，「大地の芸術祭」）は，現代アートを媒介として，十日町市と津南町の 760km^2 に存在する自然・歴史・文化・産業などの様々な地域資源を掘り起こし，地域の魅力を高め，地域を活性化することを目的としたアートプロジェクトである．1994 年に策定された新潟県の地域づくりプロジェクト「ニューにいがた里創プラン」の「越後妻有アートネックレス整備構想」事業（1996 年）の一環として，2000 年以降 3 年に一度開催されてきた．2006 年の第 3 回までは，県や地元自治体に財政面で依存するアートプロジェクトであったが，2009 年の第 4 回からは，地元自治体や地域住民が主体となって運営し，民間の寄付・協賛金を主な財源とするアートプロジェクトへの転換が図られてきた．

表 1-1-1 は，大地の芸術祭実行委員会（以下，芸術祭実行委員会）[3]による「大地の芸術祭総括報告書」（以下，総括報告書）に基づいて，2000 年の第 1 回から 2009 年の第 4 回の大地の芸術祭の開催規模等を作品数，入込者数，事業規模の観点からまとめたものである．

---

[1] 本稿は科学研究費補助金（基盤 C）「中山間地域・離島における居住の継続を支える社会関係資本の実態把握調査」（課題番号:23500903）の研究成果の一部である．アンケート実施において，南雲洋一氏に協力を得た．アンケート調査の設計段階において，澤村明准教授（新潟大学）と中東雅樹准教授（新潟大学）からアドバイスを受けた．公共選択学会第 16 回大会では片山泰輔教授（静岡文化芸術大学）には本研究を今後発展させるうえでの大変貴重なご意見を頂戴した．ここに記して感謝の意を表したい．

[2] 新潟大学経済学部准教授 esumi@econ.niigata-u.ac.jp

[3] 大地の芸術祭実行委員会は，実行委員長（十日町市長），副委員長（津南町長），総合プロデューサー，総合ディレクターで構成される「本部会議」，大地の芸術祭や地域づくりに関係する様々な団体（経済，観光関連，教育文化関連団体等）で構成される「大地の芸術祭サポート会議」，作品の制作，運営・管理，関連イベントに参加している団体等の連携を図るための「参加団体連絡調整会議」，「企画担当者会議」，「事

まず，大地の芸術祭の開催規模を会期中の作品数からみると，2000 年の第 1 回から 2009 年の第 4 回にかけて，146 作品から 365 作品へと規模が拡大してきた．つぎに，作品鑑賞者とイベント参加者数は入込者数としてまとめられており，2000 年の第 1 回 16.3 万人から，2003 年の第 2 回には 20.5 万人，2006 年の第 3 回には 34.9 人，2009 年の第 4 回には 37.5 万人へと増加してきた．作品数や入込者数の増加とともに，大地の芸術祭の運営にはボランティアの存在が不可欠となっている．実際に，大地の芸術祭は，こへび隊と呼ばれるボランティアが空き家を中心とする作品管理業務，会期中毎日運行されたツアーバスの作品ガイド[4]などに従事し，芸術祭会期中の運営に大きな役割を果たしてきた[5]．各回の登録数と活動数には変動があるものの，第 4 回会期中は延べ人数にして，3,244 人が活動した．さらに，事業収入で芸術祭の開催規模をみていくと，第 1 回から第 4 回までは 4 億円台から 6 億円台で推移してきた．

表 1-1-1 大地の芸術祭の開催規模等についてのまとめ

	第 1 回（2000 年）	第 2 回（2003 年）	第 3 回（2006 年）	第 4 回（2009 年）
会期中作品数	146	224	329	365
入込者数（人）	162,800	205,100	348,997	375,311
こへび隊登録数（人）	800	771	930	350
こへび隊活動数（人）	4,770	2,000	2,500	3,244
経済波及効果（百万円）	12,785 [1.70]	14,036[1.56]	5,681[1.47]	3,560 [1.41]
建設投資効果額	10,054	12,810	1,327	190
消費支出効果額	2,704	1,225	4,354	3,370
事業収入（百万円）	546.9 (100%)	426.6(100%)	670.4(100%)	581.1(100%)
パスポート等収入	41.9 (7.7%)	43.0 (10.1%)	143.1 (21.3%)	89.9 (15.5%)
寄付金収入	13.0 (2.4%)	2.4 (0.6%)	213.5 (31.8%)	241.3 (41.5%)
県負担金	280.3 (51.3%)	220.5 (51.7%)	106.4 (15.9%)	―
市町負担金	186.9 (34.2%)	147.0 (34.5%)	169.3 (25.3%)	78.3 (13.5%)

注：1.「大地の芸術祭総括報告書」に基づき作成．

2.入込者数は，作品鑑賞者とイベント参加者数の合計

3.こへび隊の登録者人数，活動人数は会期中の値．

4.経済波及効果は，新潟県産業連関表を用いた新潟県全体への経済効果．[　]内は投資効果．

5.事業収入の（　）内は事業収入額に対する各収入項目の割合．

務局」（十日町市観光交流課・芸術祭推進室）から成り立っており，芸術祭の円滑な企画運営と関係機関等の連携を図ることを目的としている．

4「第 3 回大地の芸術祭総括報告書」による．

5「第 4 回大地の芸術祭総括報告書」によれば，芸術祭の規模拡大とともに，作品管理場所が増えたため，こへび隊数が不足するという事態になった．

芸術祭実行委員会は,「総括報告書」のなかで「交流人口の増加」,「地域の情報発信」,「地域の活性化」の観点から，大地の芸術祭の評価を行っている[6]．交流人口は，入込者数（作品鑑賞者とイベント参加者数の合計）の状況によって示されている．上述のように，入込者数は 2000 年の第 1 回 16.3 万人から, 2009 年の第 4 回には 37.5 万人へと増加してきた．

「地域の活性化」については，新潟県の産業連関表を用いた経済波及効果によって，その評価が行われている．第 1 回から第 4 回の経済波及効果として，初期の建設投資と消費支出（直接効果）に対する総合効果の倍率（投資効果）がそれぞれの 1.70,1.56,1.47,1.41 と算出されている．

表 1-1-1 にはさらに，財政面の収入構造の状況を明らかにするために，これまでの事業収入の項目別金額とその割合を示している．第 1 回は，事業収入に占める新潟県負担金の割合が 51%で，県と地元市町（十日町市・津南町）を合わせた負担金は 85.5%に及んでいた．第 1 回，第 2 回ともに，県と市町の負担金が 80%を超え，会期中のパスポートや鑑賞券の販売収入の割合が低く，特に寄付金の割合が極めて小さかった．第 3 回からは，県負担額が大幅に低下し，同時に地元市町の負担割合も低下し，公的な負担割合が 40%程度となった．その一方で，パスポート等の販売収入と，寄付金の割合が増加した．これらを合わせると，53.1%と半分以上の収入割合を占めるようになった．第 4 回[7]では,「ニューにいがた里創プラン」に基づく県の負担金が無くなったために，財政面を新潟県や地元自治体に依存するイベントから自立型のアートイベントが指向されたことから，パスポート等の販売収入[8]と寄付金の割合は 57%とさらに高い収入割合を占めるようになった．さらに，これらに財団等からの助成金等（21.3%）も合わせると，78%程度の財源が確保されている．他方，2009 年の第 4 回から地元市町による財政負担は，3 年間で 1 億円に制限されたため，公的財政負担の割合は 13.5%となった．この変化は，2012 年の第 5 回でも継続している[9]．

---

[6]「交流人口の増加」,「地域の情報発信」,「地域の活性化」の評価については「大地の芸術祭総括報告書」を参照．

[7] 2009 年の第 4 回「総括報告書」によれば，大地の芸術祭実行委員会の会計分以外にも，その他の団体会計分として 2,280 万円程度の予算規模があり，それらを合わせると，09 年の事業規模は 6 億円になる．芸術祭実行委員会とは別に，イベントごとに各実行委員会単位で受けた補助金・助成金が存在するため，他団体会計分として別処理されている．

[8] 2009 年の第 4 回は大地の芸術祭実行委員会と NPO 法人越後妻有里山協同機構との共催になり，パスポート販売収入の 1/3 は同機構の収入として計上されているため，ここに計上された数字がそのすべてでない．

[9] 十日町市の 2012 年度当初予算には，大地の芸術祭運営事業費として 2 億 600 万円が計上されている．2012 年の芸術祭に対する寄付や協賛金，パスポートの販売収入や助成金等の収入（見込額）は，いったん市の一般会計に繰り入れられるため，これらが市の歳出予算に 2 億 600 万円の一部として計上されている（十日町市財政課へのヒアリングに基づく）．さらに，2 億 600 万円には十日町市の負担金（1,492 万円）と津南町の負担金（366 万円）も含まれる．したがって，市の予算に計上されている 12 年度の 2 億 600 万円（3 年間で，3 億 4,200 万円）のすべてが公的負担ではない．実質的な市・町による財政負担は，既に決定されている 3 年間で 1 億円（うち，2012 年度分は市町合わせて 1,857 万円）である．この大地の芸術祭運営事業費 2 億 600 万円は，主にアートフロントギャラリーへの芸術祭の運営委託料として支出される．ただし，実際には，市の予算には大地の芸術祭運営事業費 2 億 600 万円のほかに，芸術祭の関連事業費として，オーストラリアハウス整備事業に 3,500 万円，越後妻有交流館キナーレアート作品設置事業に 6,950 万円，飯山線アートプロジェクト事業に 3,000 万円が計上されている．

しかし，現状では寄付と販売収入という自主財源ではすべての費用を賄いきれないため，地元自治体の負担金のあり方や妥当な水準が議論となっている．また，恒久作品や施設の維持管理費用，豪雪や震災でダメージを受けた作品の修復費用が，作品の所有者である市町に追加的な負担を生じさせている．

収支のバランスをとるには，規模を縮小して支出を抑えるか（そうすると，収入も減る可能性があるが），あるいは規模を維持して，収入の増加を図るかしなければならない．実際に 2012 年の第 5 回は予算規模が縮小され，新規の作品数も抑制されて開催される．

1-2. 十日町市の人口，人口構成の状況と将来予測

大地の芸術祭の開催地域である十日町市と津南町は，多くの中山間地域が存在し，人口減少や高齢化の影響による過疎化が深刻である．ここでは，本アンケート調査で対象とした十日町市の世帯数，人口，高齢化率の状況と将来予測を明らかにしよう．

表 1-2-1 には，2011 年 12 月末現在の十日町市における 5 地域[10]（十日町，川西，中里，松代，松之山）の世帯数，人口の分布及び高齢化率が示されている．十日町市の人口，世帯数の 70%弱が十日町地域（旧十日町市）に集中している．つぎに大きい川西地域は 10%超程度であり，これらの地域では相対的に高齢化率も低い．他方，最も人口が少ない松之山地域は，全体の 4%程度であり，65 歳以上人口比率は 44%と高く，75 歳以上人口は地域人口の 30%である．

また，表 1-2-2 には，十日町市の将来推計人口とその年齢別構成割合が示されている．国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成 20 年 12 月）によれば，十日町市の人口は 2010 年を 100 としたときに，2020 年には 92.4，2030 年には 84.1 の水準となり，今後 30 年で 1 万人程度，つまり 25%程度の人口減少が予測されている．人口構成は，65 歳以上人口が 2010 年の 31.7%から 2020 年には 37.6%，2030 年には 38.0%となり，2020 年には人口の 21.0%が，2030 年には 25.5%が 75 歳以上になると予測されている．これは地域全体の値であり，十日町市内の 5 地域（旧市，旧町）では，松代地域と松之山地域のように，2011 年末時点で既に 65 歳以上人口比率が 40%を超え，75 歳以上人口比率が人口の 25%以上の地域もある（表 1-2-1）．今後 2030 年にかけて，十日町市は全体として現在の松代地域や松之山地域のような人口構造となる．一方で，現在高齢化が進行し，75 歳以上人口が 30%に至る松代地域や松之山地域では，今後の 10 年で激しい人口減少に見舞われ，今日のような集落の機能を維持することができず，存立しえない集落が多数出現すると予想される．

さらに，表 1-2-3 には，2011 年 12 月末時点の十日町市の行政区（集落）の世帯数と人口規模の分布が示されている．世帯数が 5 世帯以下の集落が 16 集落，10 世帯以下となると

---

[10] 行政単位は，市→地域→地区→行政区の順に細分化される．2011 年 12 月末時点の住民基本台帳によれば，十日町市には，5 地域，20 地区，434 行政区が存在する．ここで，行政区とは「集落」と同じものとして使われている．

55 集落あり，全集落の 12.7%を占める．人口でも 10 人以下の集落が 12 集落，25 人以下となると 50 集落あり，全集落の 11.6%を占める．これらの 10%程度の集落は，松代地域や松之山地域に限らず，十日町地域でも存在し，5 地域すべてに分布している．

しかし，松代地域と松之山地域では全体の 1/3 程度の集落がこのグループに属する．こうした 10%程度の集落は，山間部に位置し著しく高齢化率が高いと考えられるため，上述のように，今後 10 年には，これまでのような集落の機能を維持することができなくなり，集落存亡の危機を迎える可能性が高い．

表 1-2-1 十日町市と各地域の世帯数，人口，人口構成（2011 年 12 月末現在）

地域	世帯数		人口		65歳以上人口		75歳以上人口	
十日町地域計	13,635	(68)	40,200	(67.8)	11,846	(29.5)	6,612	(16.4)
川西地域計	2,352	(11.7)	7,347	(12.4)	2,448	(33.3)	1,479	(20.1)
中里地域計	1,706	(8.5)	5,702	(9.6)	1,815	(31.8)	1,165	(20.4)
松代地域計	1,416	(7.1)	3,624	(6.1)	1,560	(43)	972	(26.8)
松之山地域計	948	(4.7)	2,406	(4.1)	1,060	(44.1)	723	(30)
十日町市計	20,057	(100)	59,279	(100)	18,729	(31.6)	10,951	(18.5)

注：1.十日町市「住民基本台帳人口」より作成.

2.世帯数，人口の（　）は十日町市計に対する割合.

3.65 歳以上人口と 75 歳以上人口の（　）内は各地域の人口に対する割合%.

表 1-2-2 十日町市の将来推計人口

		2005年	2010	2015	2020	2025	2030	2035
総人口		62,058	60,247	58,056	55,663	53,186	50,692	48,273
	2010=100	103.0	100.0	96.4	92.4	88.3	84.1	80.1
年齢別割合 (%)	15歳未満	13.2	11.9	10.9	10.4	10.4	10.6	10.9
	15～64歳	57.2	56.4	54.2	52.0	51.3	51.4	51.5
	65歳以上	29.7	31.7	35.0	37.6	38.3	38.0	37.6
	75歳以上	15.4	18.0	19.8	21.0	23.4	25.5	25.7

注：国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口(平成 20 年 12 月推計)」より作成.

表 1-2-3 十日町市の行政区（集落）の人口，世帯の分布（2011 年 12 月末現在）

(1)世帯分布

世帯数	十日町	川西	中里	松代	松之山	集落数計	割合
5世帯以下	6	1	3	4	2	16	3.7%
10世帯以下	13	3	7	7	9	39	9.0%
20世帯以下	28	8	6	9	12	63	14.5%
30世帯以下	36	7	7	6	5	61	14.1%
40世帯以下	35	6	3	2	1	47	10.8%
50世帯以下	39	10	5	0	1	55	12.7%
60世帯以下	25	2	0	2	1	30	6.9%
70世帯以下	28	2	0	3	0	33	7.6%
80世帯以下	16	3	4	0	1	24	5.5%
90世帯以下	15	1	3	0	0	19	4.4%
100世帯以下	15	1	2	0	1	19	4.4%
200世帯以下	16	5	2	2	2	27	6.2%
300世帯以下	0	0	0	0	0	0	0.0%
500世帯以下	0	0	0	1	0	1	0.2%
合計	272	49	42	36	35	434	100.0%

(2)人口分布

人口	十日町	川西	中里	松之山	松代	集落数計	割合
10人以下	5	1	2	2	2	12	2.8%
25人以下	12	4	5	9	8	38	8.8%
50人以下	18	3	6	6	11	44	10.1%
75人以下	28	4	4	10	7	53	12.2%
100人以下	27	8	5	1	1	42	9.7%
125人以下	33	6	3	0	1	43	9.9%
150人以下	35	5	3	3	0	46	10.6%
175人以下	21	6	2	1	0	30	6.9%
200人以下	23	2	1	1	2	29	6.7%
225人以下	24	0	0	0	1	25	5.8%
250人以下	9	1	1	1	0	12	2.8%
275人以下	12	2	2	0	1	17	3.9%
300人以下	5	2	3	1	0	11	2.5%
301人以上	20	5	5	1	1	32	7.4%
合計	272	49	42	36	35	434	100.0%

注：十日町市「住民基本台帳人口」より作成.

1-3. 研究の目的

このような集落の存亡の危機に直面する十日町市と津南町において，大地の芸術祭には，現代アートを媒介として，地域を活性化させる効果が期待されてきた．しかしながら，大地の芸術祭の評価については，1-1 節でみたとおり，公式には芸術祭実行委員会から，芸術祭開催期間における交流人口，新潟県の産業連関表を用いた経済波及効果，情報発信量が報告されているにすぎない．なかでも，地域活性化を評価するために算出される経済波及効果は，単に大地の芸術祭に関係する公共投資や人々の消費支出がどれだけ追加的な生産

を誘発したのかを計測する[11]に過ぎない．また，かりに十日町市以外の地域で同じイベントをやったとしても，あるいは，十日町市で同規模の異なるイベントをやったとしても，同様の経済波及効果が算出される．この意味で，産業連関表による経済波及効果は，大地の芸術祭が開催地域の活性化に寄与したかどうかを明らかにするには不十分なものでしかない．一時的な経済波及効果と地域の地域活性化との関係が明確にされていないままに，経済波及効果を地域の活性化と同一のものとして扱っていることに問題がある．

本研究では，ソーシャル・キャピタルという概念で説明される，地域住民にとっての「つきあい・交流」，「信頼」，「社会参加」の高まりが地域活性化であると定義する．すなわち，大地の芸術祭による地域活性化の効果を，芸術祭によって，地域住民同士や他地域の住民との交流（つきあい・交流）が促進されたのか，地域の人々への信頼が高まったのか，地域の諸活動への人々の参加（社会参加）が高まったか，あるいは，芸術祭がこれらを高めたり，促進したりすることにつながる好ましい変化を，地域や住民個人にもたらしたか，という点から評価する．

本稿は，2012 年夏に実施される第 5 回大地の芸術祭を対象にした中山間地域におけるアートプロジェクトの地域活性化効果に関する研究の予備的な調査研究と位置づけられる．本稿を含めたこの一連の研究は，これまでの大地の芸術祭に関する先行研究からの知見に基づき，大地の芸術祭の地域活性化効果をソーシャル・キャピタルという概念を導入して検証することを目的としている．

ただし，本稿の分析は，後述するように，2012 年に実施を予定しているアンケート調査のプレ調査の実施を優先したことにより，サンプルに偏りがあり，またサンプル数が少ないため，信頼性の高い統計分析ができないといった問題がある．したがって，分析結果の解釈には一定の留保が必要である．

本稿の構成は以下のようになっている．

2 章では，2011 年 12 月に十日町市の地域住民を対象として実施したアンケート調査の概要を説明する．3 章では，アンケート調査のうち，大地の芸術祭に関する設問項目の結果をまとめる．4 章では，ソーシャル・キャピタルの概念を説明するとともに，地域のソーシャル・キャピタルに関する設問項目の結果をまとめる．5 章は本稿のまとめと今後の課題を整理する．

---

[11] 新潟県外の人々が本来自らが居住する地域で財・サービスの購入に充てるはずだったお金を，大地の芸術祭のために新潟県内で消費したという意味では，新潟県内の経済の拡大に寄与している．その点からは経済波及効果の計測には意味がある．しかし，新潟県内の人々が，本来は別の支出に充てられていたお金を大地の芸術祭に関連する消費に充てた場合には，芸術祭の経済効果とは言えない．この意味で経済波及効果を用いた評価は，芸術祭の経済波及効果を過大評価している可能性がある．

2. アンケート調査の目的と概要

2 章では，2-1 節でアンケート調査の目的と概要を，さらに，2-2 節でアンケート調査の回答者の地域分布と属性を明らかにする．

2-1. アンケート調査の目的と概要

2-1-1 節では，アンケート調査の目的について，2-1-2 節では，行政区別，地理的条件別の回答者数の状況について説明する．

2-1-1. アンケート調査の目的について

本稿のアンケート調査は，2011 年 12 月に十日町市在住者のネットワークを通じて，主に，十日町市十日町地域の中条地区，川西地域の千手地区を中心とした地域住民を対象に実施したものである．調査実施の主な目的は，2012 年夏に実施予定の本調査に向けた，アンケート調査項目や分析設計の精査にあった．十日町市の地元団体に所属するか，団体関係者と関係がある地区に居住する住民を対象にアンケート調査票を配布したため，サンプルが正確に母集団を反映しているものになっていない．

それでも，アンケート調査から十日町市住民の大地の芸術祭に関する考えを把握でき，さらには，居住地域の違いによる地域の活性化の状況，住民同士のつながりなどに関する状況を把握できる．前者は本稿の 3 章の芸術祭に関する調査結果として，後者は 4 章のソーシャル・キャピタルに関する調査結果としてまとめられている．

なお，アンケート調査項目については，文末に添付されているアンケート調査票を参照されたい．

2-1-2. アンケート調査実施地域と回答数について

今回のアンケート調査は，2011 年 12 月に，主に十日町地域の中条地区，川西地域の千手地区を中心として地域住民を対象に実施した．300 部を配布し，101 部を回収した．調査地域と回答者数については，表 2-1-1 にまとめられている．

十日町地域の中条地区を除いた地区，川西地域の千手地区などの地区は，JR 飯山線沿いの平地に位置している．他方，十日町地域の中条地区や松之山地域の浦田地区は山間部に位置している．特に，中条地区の山間地に位置する行政区（集落）では，2011 年 12 月末の住民基本台帳人口によれば，40 世帯を超える行政区（集落）も 1 つ含まれているが，その他はすべて世帯数が 10 世帯未満で，人口も 20 人未満である．

回収したアンケートは101部であり，そのうち，十日町市の十日町地域から52部（51%），川西地域ら25部(25%)，中里地域から11部(11%)，松之山地域から2部(2%)，不明が11部(11%)ある．実際の十日町市の人口分布は68%が十日町地域に集中し，十日町地域内の人口も平地に多く分布しているため，今回のアンケート調査は人口分布を正確には反映したものになっていない（表1-2-1参照）．この不明の11部は，アンケート回答者に対して，居住する行政区名を記入してもらう欄をアンケート用紙に設けたが，記入されなかったためである．

これらを平地と山間地とに区別してみると，平地が43部，山間地46部，不明が12部となっており，平地と山間地のサンプルがほぼ半分ずつある[12]．

表2-1-1 アンケート調査実施地域と回答者数

地域	地区	平地	山間地	不明	総計
十日町		13	39	−	52
	十日町	2	−	−	1
	吉田	3	−	−	3
	水沢	1	−	−	1
	川治	5	−	−	5
	中条	2	39	−	41
川西		25	−	−	25
	橘	4	−	−	4
	上野	1	−	−	1
	千手	20	−	−	20
中里		5	5	1	11
	倉俣	−	5	−	5
	田沢	5	−	−	5
	不明	−	−	1	1
松之山		−	2	−	2
	浦田	−	2	−	2
不明		−	−	11	11
	不明	−	−	11	11
総計		43	46	12	101

2-2. 回答者属性

本アンケート調査の回答者の属性[13]をまとめると以下の通りである[14]．

---

12 勝村ほか（2008）と鷲見（2010）で用いられた2006年の第3回大地の芸術祭開催時のアンケート調査では，十日町市と津南町の66集落（行政区）の3,235世帯に配布され，72%が回収されている．地理的条件でみると，平地が38.3%で山間地が61.7%となっている．前回調査も十日町市と津南町の地理的な人口分布を反映しているとはいえないサンプルになっている．

13 2006年のアンケートの回答者属性は，勝村ほか(2008)に詳細に示されている．これをみると，男性割合が65.4%，年齢階層は50歳代が25.9%で最も高く，65歳以上割合が24.8%，居住年数50年以上が最頻値で50.3%，地域内出身者が69.6%であり，今回のアンケート調査の回答者属性と大きな違いがみられない．

14 調査項目の詳細はアンケート調査票の設問6を参照されたい．

表 2-2-1 にまとめた通り，回答者の性別は，男性が 66.3%，女性が 29.7%であり，男性のウエイトが高い．平地と山間地で分けると，女性の割合は平地で高い．

年齢構成は，50 歳代と 60-64 歳代がそれぞれ 20%超で，これらの世代を合わせると全体の 44.6%と高いウエイトを占める．65 歳以上の高齢者の割合は 25.7%であり，同市の高齢化率 31.6%よりも低い（表 1-2-1 参照）．また，山間地の最頻値は 50 歳代で，平地の最頻値 60-64 歳代より若い年齢層にピークがあるが，山間地は若年層がほとんどおらず高齢層の分布が厚い．他方，平地は 20 歳代や 30 歳代などの若年層にも分布の裾が広がっている．

回答者の職業は「民間企業・団体」，「農業」，「自営業またはその手伝い」，「専業主婦・主夫」の順で多い．職業は平地と山間地で大きな違いが見られない．

学歴は高校までが 45.5%で最も多く，中学までが 26.7%，短大専門学校及び大学以上が 23.8%となっている．平地の 60%弱が高校までであるのに対して，山間地は中学校までが 45.75%と最も高い．

回答者の居住状況をみると，世帯人数は，2 人世帯（25.7%），4 人世帯（21.8%），3 人世帯（19.8%）の順で多い．一方，単身者（＝世帯人数 1 名）はわずか 2%であり，最大は 10 名（3 世代居住）である．平地と山間地で比較してみると，平地は，4 人世帯が最頻値で，2 人世帯から 4 人世帯に 72%が集中している．他方，山間地は 2 人世帯が最頻値である．2 人世帯（26 世帯）のうち，20 世帯が夫婦世帯である．山間地では子世代が平地や他地域へ転出したため，夫婦のみの 2 人世帯が中心になっている状況がみられる．

居住年数は，50 年以上が 43.6%と最多であり，40 年以上になると，57.5%となり，地域住民はかなりの長期間にわたって現在の地域に住み続けている．特に山間地の 58.7%は 50 年以上同じ地域に住み続けている．さらに，66.3%が現在の居住地で生まれている．この割合は山間地ほど高く，80%超にもなる．これらを総合すると，地域住民は生まれた地域で長期間にわたって居住しているが，特に山間地に居住する住民ほどこの特徴が顕著である．

表 2-2-1 回答者属性

(1)性別　　$\chi^2(1)=4.73$, $p=0.030$

性別	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
男性	26	60.5	37	80.4	4	33.3	67	66.3
女性	15	34.9	7	15.2	8	66.7	30	29.7
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(2)年齢構成　　$\chi^2(4)=8.593$, $p=0.035$

年齢	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
20歳代	6	14.0	0	0.0	1	8.3	7	6.9
30歳代	3	7.0	1	2.2	1	8.3	5	5.0
40歳代	7	16.3	6	13.0	1	8.3	14	13.9
50歳代	9	20.9	14	30.4	1	8.3	24	23.8
60-64歳	10	23.3	8	17.4	3	25.0	21	20.8
65-75歳	4	9.3	7	15.2	5	41.7	16	15.8
75-84歳	2	4.7	8	17.4	0	0.0	10	9.9
85歳以上	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(3)職業　　$\chi^2(6)=1.186$, $p=0.978$

職業	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
専業主婦・主夫	5	11.6	2	4.3	3	25.0	10	9.9
民間企業・団体	14	32.6	13	28.3	0	0.0	27	26.7
自営業又はその手伝い	5	11.6	5	10.9	1	8.3	11	10.9
公務員・教員	3	7.0	4	8.7	1	8.3	8	7.9
パート・アルバイト	1	2.3	1	2.2	3	25.0	5	5.0
学生	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
農業	11	25.6	12	26.1	2	16.7	25	24.8
漁業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
林業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
年金生活者	2	4.7	6	13.0	2	16.7	10	9.9
その他	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	1.0
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(4)学歴　　$\chi^2(2)=12.73$, $p=0.002$

学歴	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
中学校まで	5	11.6	21	45.7	1	8.3	27	26.7
高校まで	25	58.1	15	32.6	6	50.0	46	45.5
専門学校・短大まで	4	9.3	6	13.0	5	41.7	15	14.9
大学以上	7	16.3	2	4.3	0	0.0	9	8.9
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(5)　世帯人数　　$\chi^2(7)=22.977$, p=0.002

同居人数	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
1人	0	0.0	1	2.2	1	8.3	2	2.0
2人	9	20.9	13	28.3	4	33.3	26	25.7
3人	9	20.9	8	17.4	3	25.0	20	19.8
4人	13	30.2	7	15.2	2	16.7	22	21.8
5人	3	7.0	6	13.0	0	0.0	9	8.9
6人	4	9.3	2	4.3	1	8.3	7	6.9
7人	0	0.0	2	4.3	1	8.3	3	3.0
8人	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	1.0
9人	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10人	1	2.3	0	0.0	0	0.0	1	1.0
無回答	4	9.3	6	13.0	0	0.0	10	9.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(6)　居住年数　　$\chi^2(7)=8.402$, p=0.004

居住年数	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
2年未満	2	4.7	0	0.0	0	0.0	2	2.0
2年から5年未満	0	0.0	2	4.3	0	0.0	2	2.0
5年から10年未満	3	7.0	1	2.2	0	0.0	4	4.0
10年から20年未満	3	7.0	3	6.5	2	16.7	8	7.9
20年から30年未満	9	20.9	0	0.0	1	8.3	10	9.9
30年から40年未満	7	16.3	2	4.3	3	25.0	12	11.9
40年から50年未満	4	9.3	8	17.4	2	16.7	14	13.9
50年以上	13	30.2	27	58.7	4	33.3	44	43.6
無回答	2	4.7	3	6.5	0	0.0	5	5.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

(7)　出身地　　$\chi^2(1)=15.66$, p=0.004

出身地	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
地域内	25	58.1	38	82.6	4	33.3	67	66.3
地域外	16	37.2	5	10.9	8	66.7	29	28.7
無回答	2	4.7	3	6.5	0	0.0	5	5.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：1.各表には，地理的条件（平地と山間地）の違いに関する独立性の検定結果を付した．無回答，不明を除いたケースである．

2.アンケート調査票の設問 6 を参照されたい．

3. 大地の芸術祭に関する調査結果

3 章では，大地の芸術祭に関するアンケート調査の結果を示す．アンケート調査では，芸術祭のイメージについて，芸術祭を通じた地域活動の変化，そして芸術祭を通じた個人の生活の変化を主に地域住民に対して質問している．3-1 節では，これらの質問項目のアンケート調査の単純集計の結果を示す．3-2 節では，これらの質問項目と個人属性や地域環境との関係をクロス分析を通じて明らかにする．

3-1. 大地の芸術祭に関するアンケート調査結果

3-1-1 節では大地の芸術祭について，3-1-2 節では芸術祭を通じた地域活動の変化について，3-1-3 節では芸術祭との地域住民の関わりときっかけについて，3-1-4 節では芸術祭を通じた個人の生活の変化についての質問項目の集計結果を示す．その際に，平地と山間地とを区別して，地理条件の違いによって回答に違いがあるかどうかについてみている．

3-1-1. 大地の芸術祭について

まず，地域住民の大地の芸術祭に対するイメージについての結果を示す[15].

表 3-1-1 より，芸術祭のイメージとして「良い」と回答した割合は全体の 53.5%と過半数を上回った．芸術祭に対するイメージには平地と山間地の違いは確認できない．芸術祭に対するイメージの良し悪しに地域の違いが関係しているかどうかを検定した結果，互いに独立（無関係）であるという帰無仮説を棄却できなかった．

つぎに, 表 3-1-2 より,「良い」と回答した 54 名の理由に注目すると, アート作品（61.1%），来訪者（51.9%），地域住民の対応（50.0%），アーティストの活動（44.4%），こへび隊の活動（35.2%）が高い．良い評価の要因としては，アート作品やアーティストといった芸術にかかわるものと来訪者やこへび隊といった地域外からもたらされた変化に対するものが高い．アート作品とアーティストは後者にも含めることができる．

その一方で，悪いイメージを持つ割合も 10%程度であるが存在し，特にアート作品に対する評価が低い．

アンケート調査の自由記述を活用して，良いイメージ，悪いイメージをもつ理由を整理すると，アート作品については賛否両論ある．現代アートに対する理解は個々人によって様々であるためである．肯定的な意見としては，アート作品そのものを評価する意見というよりは，アート作品を媒介として広がった人々の交流や地域内の活気が高まったことに対する良い評価がみられる．また，地域住民や地元アーティストによるアート作品制作を求める意見やより積極的な地域外へのアピールを求める意見もある．他方，否定的な意見

---

15 アンケート調査票の設問 1 を参照されたい．

としては，どうして十日町市に現代アートなのか理解できない，現代アートに共感できないといった意見がみられる．

悪いイメージには，さらに，芸術祭が一部の人たちのイベントであるという疎外感，芸術祭が（共感の得られにくい現代アートに）税金を投入して開催されることに対する反感や，（もともと地域共同活動が盛んな地域であるために）芸術祭への参加や関わりを強制されたことへの反感がある．

表 3-1-1　芸術祭に対するイメージ

$\chi^2(2)=2.575$, p=0.276

芸術祭のイメージ	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
良い	23	53.5	27	58.7	4	33.3	54	53.5
どちらともいない	11	25.6	14	30.4	6	50.0	31	30.7
悪い	6	14.0	2	4.3	2	16.7	10	9.9
無回答	3	7.0	3	6.5	0	0.0	6	5.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 1(1)．独立性の検定結果は，無回答，不明を除いたケースで以下の各表も同じである．

表 3-1-2　良いイメージの理由（多重回答）

良いイメージ理由	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%	回答者%
アート作品	14	23.3	16	23.9	3	27.3	33	23.9	61.1
アーティストの活動	13	21.7	11	16.4	0	0.0	24	17.4	44.4
こへび隊の活動	9	15.0	7	10.4	3	27.3	19	13.8	35.2
地域住民の対応	15	25.0	10	14.9	2	18.2	27	19.6	50.0
行政の対応	1	1.7	4	6.0	0	0.0	5	3.6	9.3
来訪者	8	13.3	18	26.9	2	18.2	28	20.3	51.9
その他	0	0.0	1	1.5	1	9.1	2	1.4	3.7
合計	60	100	67	100	11	100	138	100	255.6

注：設問 1(1-A)．パーセントは合計に対する割合．回答者パーセントは回答者数（54）に対する割合．

さらに，芸術祭がその目的とされる新しい地域の魅力を生み出す役割を果たしたかどうかを聞いたところ，表 3-1-3 に示した通り，芸術祭が新しい魅力を生み出したと思うと回答した割合は全体の 52.5%と過半数を上回った．この回答における平地と山間地の違いは確認できない．

また，芸術祭が今後も継続されることについての賛否については，表 3-1-4 に示した通り，芸術祭の継続に賛成すると回答した割合は全体の 55.4%となり，過半数を上回った．芸術祭の継続については，平地と山間地の違いが確認できる（統計的には互いに無関係であるという帰無仮説を 5%有意水準で棄却）．つまり，平地に居住する住民ほど，継続に賛成しないと回答した割合が高い傾向がみられる．具体的には，「賛成しない」の回答割合は平地では 20.9%と高く，山間地では 2.2%とかなり低い．

表 3-1-3　芸術祭は新しい地域の魅力を生み出す役割を果たしたか

$\chi^2(2)=1.225$, p=0.542

魅力を生み出したか	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
思う	23	53.5	25	54.3	5	41.7	53	52.5
どちらともいない	12	27.9	14	30.4	5	41.7	31	30.7
思わない	6	14.0	3	6.5	2	16.7	11	10.9
無回答	2	4.7	4	8.7	0	0.0	6	5.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 1(2).

表 3-1-4　芸術祭が今後も継続されることについて

$\chi^2(2)=8.144$, p=0.017

芸術祭の継続	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
賛成する	24	55.8	29	63.0	3	25.0	56	55.4
どちらともいない	7	16.3	12	26.1	6	50.0	25	24.8
賛成しない	9	20.9	1	2.2	3	25.0	13	12.9
無回答	3	7.0	4	8.7	0	0.0	7	6.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 1(3).

3-1-2. 大地の芸術祭を通じた地域の変化について

ここでは，地域住民に対して，芸術祭への地域としての関わりの程度と芸術祭を通じた地域の変化について質問した結果を示す[16].

まず，表 3-1-5 より，芸術祭への地域としての関わりに対して，「ある程度協力的」と回答した割合は全体の 32.7%と最も高く，「非常に協力的」と回答した割合（8.9%）と合わせると 41.6%となる．一方で，「あまり協力的でない」と回答した割合は全体の 26.7%と比較的高く，さらに「まったく協力的でない」（5.9%）と合わせると，32.6%である．ただし，居住地域におけるアート作品の設置の有無によって回答が影響を受けている可能性がある．

芸術祭への地域としての関わりについては，平地と山間地の違いが確認できる（互いに無関係であるという帰無仮説を 5%有意水準で棄却）．つまり，平地ほど協力的でないと回答した割合が高い傾向がみられる．具体的には，平地では「あまり協力的でない」が最頻値（32.6%）であるのに対して，山間地では「ある程度協力的である」が最頻値（43.5%）である．

つぎに，表 3-1-6 より，芸術祭を通じた地域の変化の方向性（好ましい変化，好ましくない変化）についてみると，変化がみられないとする中立的な回答が全体の 62.4%と最も多かった．その一方で，「好ましい変化」の回答は 27.7%と「好ましくない変化」の 5 倍以上

16 アンケート調査票の設問 2 を参照されたい．

高かった．統計的に有意な差はみられないものの，「好ましい変化」と回答した割合が，山間地のほうが平地より 2 倍高いことも確認できる．

表 3-1-5　居住する地域は芸術祭に協力的だと思うか

$\chi^2(4)=12.985$, p=0.011

地域の協力	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
非常に協力的である	2	4.7	7	15.2	0	0.0	9	8.9
ある程度協力的である	9	20.9	20	43.5	4	33.3	33	32.7
どちらともいえない	10	23.3	7	15.2	3	25.0	20	19.8
あまり協力的でない	14	32.6	10	21.7	3	25.0	27	26.7
まったく協力的でない	5	11.6	0	0.0	1	8.3	6	5.9
無回答	3	7.0	2	4.3	1	8.3	6	5.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 2(1).

表 3-1-6　芸術祭は居住する地域にどのような変化をもたらしたか

$\chi^2(2)=3.565$, p=0.168

地域の変化	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
好ましい変化	9	20.9	18	39.1	1	8.3	28	27.7
どちらともいえない	30	69.8	24	52.2	9	75.0	63	62.4
好ましくない変化	2	4.7	2	4.3	1	8.3	5	5.0
無回答	2	4.7	2	4.3	1	8.3	5	5.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 2(2).

表 3-1-7　好ましい変化の理由（多重回答）

好ましい理由	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%	回答者%
アート作品	5	31.3	6	13.3	1	50.0	12	19.0	42.9
アーティストの活動	4	25.0	9	20.0	0	0.0	13	20.6	46.4
こへび隊の活動	2	12.5	5	11.1	0	0.0	7	11.1	25.0
地域住民の対応	1	6.3	12	26.7	1	50.0	14	22.2	50.0
行政の対応	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	1.6	3.6
来訪者	4	25.0	10	22.2	0	0.0	14	22.2	50.0
その他	0	0.0	2	4.4	0	0.0	2	3.2	7.1
合計	16	100	45	100	2	100	63	100	225.0

注：設問 2(2-A)．パーセントは合計に対する割合．回答者パーセントは回答者数（28）に対する割合．

表 3-1-7 より，「好ましい変化」と回答した 28 名の「好ましい」理由に注目すると，地域住民の対応（50.0%），来訪者（50.0%），アーティストの活動（42.9%），アート作品（46.4%）が高い．これらは，芸術祭に対する良いイメージの理由（表 3-1-2）の結果とも合致している．

地域別にみると，回答数が少ないものの，平地ではアート作品（31.3%），アーティストの活動（25.0%），来訪者（25.0%）が高く，山間地では地域住民の対応（26.7%），来訪者（22.2%），アーティストの活動（42.9%）が高いという違いがみられる．特に，山間地で最も高かった「地域住民の対応」が平地では 6.3%にすぎない．アート作品の設置の有無にも影響を受けると考えられるものの，芸術祭が地域住民の活動を通じて，地域に良い変化をもたらすというプロセスは山間地に顕著な傾向である．

さらに，芸術祭が地域にもたらした具体的な変化として，「地域共同活動（A)」，「地域共同活動への参加人数（B)」，「挨拶・会話（C)」，「女性の活躍（D)」，「高齢者の活躍（E)」，「地域の活気（F)」，「まとまり（G)」の増減について聞いたところ，表 3-1-8 より「変わらない」と回答した割合は全体を通しておよそ 60%前後と最も高かった．一方で，「増えた」の回答割合についてみると，「地域共同活動（A)」（20.7%），「高齢者の活躍（E)」（20.7%），「地域の活気（F)」（21.7%）で 20%を上回った．最も低い「挨拶・会話（C)」が 11.8%で，すべての項目で回答者割合が 10%を上回っている．挨拶の増加の割合が低いのは，地域内でもともと挨拶や会話があったとみるべきかもしれない．

勝村ほか(2008)では，芸術祭を通じた地域の変化に対する肯定的な回答の割合は，「地域の行事」が 26.2%，「地域の活気」が 25.5%，「行事への参加者数」が 21.9%，「女性の活躍」が 18.9%，「高齢者の活躍」が 17.5%，「地域のまとまり」が 13.9%であった．2006 年調査と比較すると，2011 年調査では，「高齢者の活躍（E)」が増加したという割合が 20.7%と若干高くなったものの，同様の傾向が確認できる．

芸術祭が地域にもたらした具体的な変化に，地域による違いあるかどうかについては，表 3-1-8 に示した通り，「地域内での女性の活躍（D)」以外のすべての項目で統計的に有意な違いがあることが確認された（互いに無関係であるという帰無仮説を 5%ないし 1%有意水準で棄却）．具体的には，平地より山間地のほうが地域共同活動，共同活動への参加人数，挨拶，高齢者の活躍，地域の活気，まとまりが増えたとする回答割合が高いことが確認できる．特に，「挨拶・会話（C)」，「地域の活気（F)」，「まとまり（G)」は平地の回答割合が 10%未満であるのに対して，山間地の回答割合は 20%程度から 35%程度と高い．

表 3-1-8　芸術祭を通じた地域の変化

		A.地域活動	B.参加人数	C.挨拶・会話	D.女性の活躍	E.高齢者の活躍	F.活気	G.まとまり
全地域	増えた	21 (20.7)	17 (16.8)	12 (11.8)	15 (14.8)	21 (20.7)	22 (21.7)	14 (13.8)
	変わらない	62 (61.3)	62 (61.3)	69 (68.3)	64 (63.3)	62 (61.3)	57 (56.4)	61 (60.3)
	減った	0 (0)	1 (0.99)	0 (0)	1 (0.99)	0 (0)	3 (2.97)	5 (4.95)
	無回答	18 (17.8)	21 (20.7)	20 (19.8)	21 (20.7)	18 (17.8)	19 (18.8)	21 (20.7)
	合計	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)
平地	増えた	5 (11.6)	3 (6.97)	1 (2.32)	4 (9.30)	6 (13.9)	4 (9.30)	1 (2.32)
	変わらない	31 (72.0)	31 (72.0)	33 (76.7)	30 (69.7)	30 (69.7)	29 (67.4)	32 (74.4)
	減った	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.32)	0 (0)
	無回答	7 (16.2)	9 (20.9)	9 (20.9)	9 (20.9)	7 (16.2)	9 (20.9)	10 (23.2)
	合計	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)
山間地	増えた	14 (30.4)	12 (26.0)	9 (19.5)	9 (19.5)	13 (28.2)	16 (34.7)	11 (23.9)
	変わらない	22 (47.8)	23 (50)	28 (60.8)	26 (56.5)	24 (52.1)	20 (43.4)	21 (45.6)
	減った	0 (0)	1 (2.17)	0 (0)	1 (2.17)	0 (0)	1 (2.17)	4 (8.69)
	無回答	10 (21.7)	10 (21.7)	9 (19.5)	10 (21.7)	9 (19.5)	9 (19.5)	10 (21.7)
	合計	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)
検定	X^2	5.791	7.534	6.695	3.154	3.233	8.742	14.513
	自由度	1	2	1	2	1	2	2
	確率	0.016	0.023	0.010	0.207	0.072	0.013	0.001

注：設問 2(3).（　）内は%．検定は地域差の検定.

3-1-3. 地域住民の大地の芸術祭との関わりときっかけ

ここでは，地域住民に対して，個人としての大地の芸術祭との関わりとそのきっかけ，さらに芸術祭への関わりの積極度について質問した結果を示す[17].

まず，地域住民は芸術祭とどんな関わりを持ち，その関わりは何がきっかけだったのか．表 3-1-9 より，芸術祭との関わりは，「作品やイベントの見学」が 63.8%と最も高い．ついで，「地域での芸術祭関連行事への協力」が 22.3%，「アーティストへの協力」が 18.1%と高い．一方で，「個人的関わりなし」の回答者も 29.8%いる．

芸術祭との個人的関わりについて，勝村ほか(2008)の 2006 年調査と比較すると，2011 年では「作品やイベントの見学」と「アーティストへの協力」の回答割合が高く，「地域での行事への協力」と「個人的関わりなし」，「こへび隊への協力」が低い．これは回数を経るたびに作品やイベントの見学を通じて，芸術祭との接点をもつ人が増加した可能性を示している．

芸術祭との関わりを持ったきっかけは，表 3-1-10 より，「興味があった」が最も高く，回答者の 38.5%が回答している．ついで，「集落で頼まれた」が 26.2%と高い．

表 3-1-11 は，上述の芸術祭との関わりときっかけとの関係をみたものである．「作品」がきっかけとなった理由は，「興味があった」，「集落で頼まれた」，「友人に誘われた」が高い．集落で頼まれたからアート作品を見に行ったという側面も考えられる．また，「地域での芸術祭関連行事への協力」という関わりのきっかけは，「集落で頼まれた」が最大であるが，「興味があった」が次いで高い．06 年は「地域（集落）で仕事を頼まれた」との回答割合が 38.0%と高かったが，11 年は「興味があった」，「友人や家族に誘われた」との回答割合が高い．

つぎに，地域住民は芸術祭に対してどの程度協力的だったのか．集落内の他の人より芸術祭に対して協力したかどうかを聞いたところ，表 3-1-12 より，「どちらかというと協力」と「協力していない」が共に 29.7%と高かった．「積極的に協力」と「どちらかというと協力」を合わせると，43.6%が前向きに参加している．他方で，無回答者の割合が 26.7%と高いが，これは地域内にアート作品がなかったり，居住地域では芸術祭に関わる環境がなかったりしたことなどが影響したと推察される．芸術祭への協力の積極性には地域による違いがみられる（統計的には互いに無関係であるという帰無仮説を 5%有意水準で棄却）．具体的には「積極的に協力」と「どちらかというと協力」との合計は，平地では 27.9%であるのに対して，山間地では 58.7%と山間地のほうが 30%ポイントも高い．すなわち，山間地の地域住民のほうが芸術祭への積極的に参加している．

---

17 アンケート調査票の設問 3 を参照されたい．

表 3-1-9　芸術祭との関わり（多重回答）

芸術祭との関わり	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%	回答者%
作品やイベントの見学	25	40.3	28	34.1	7	31.8	60	36.1	63.8
勤務先の仕事	4	6.5	2	2.4	1	4.5	7	4.2	7.4
地域での行事協力	3	4.8	16	19.5	2	9.1	21	12.7	22.3
資産の貸与	3	4.8	2	2.4	1	4.5	6	3.6	6.4
ワークショップ参加	0	0.0	4	4.9	1	4.5	5	3.0	5.3
来訪者への作品案内	5	8.1	5	6.1	2	9.1	12	7.2	12.8
作品管理	2	3.2	2	2.4	1	4.5	5	3.0	5.3
アーティストへの協力	2	3.2	13	15.9	2	9.1	17	10.2	18.1
こへび隊への協力	1	1.6	2	2.4	0	0.0	3	1.8	3.2
その他	2	3.2	0	0.0	0	0.0	2	1.2	2.1
個人的関わりなし	15	24.2	8	9.8	5	22.7	28	16.9	29.8
合計	62	100	82	100	22	100	166	100	176.6

注：設問 3(1)．パーセントは合計に対する割合．回答者パーセントは回答者数（94）に対する割合．

表 3-1-10　芸術祭との関わりのきっかけ（多重回答）

きっかけ	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%	回答者%
集落で頼まれた	1	3.0	14	29.8	2	20.0	17	18.9	26.2
勤務先の仕事	6	18.2	3	6.4	1	10.0	10	11.1	15.4
友人に誘われた	7	21.2	3	6.4	2	20.0	12	13.3	18.5
家族に誘われた	5	15.2	3	6.4	0	0.0	8	8.9	12.3
行政に誘われた	2	6.1	7	14.9	1	10.0	10	11.1	15.4
作家に誘われた	0	0.0	3	6.4	0	0.0	3	3.3	4.6
こへび隊に誘われた	1	3.0	1	2.1	0	0.0	2	2.2	3.1
興味があった	10	30.3	12	25.5	3	30.0	25	27.8	38.5
その他	1	3.0	1	2.1	1	10.0	3	3.3	4.6
合計	33	100	47	100	10	100	90	100	138.5

注：設問 3(2)．パーセントは合計に対する割合．回答者パーセントは回答者数（65）に対する割合．

表 3-1-11　芸術祭との関わりときっかけの関係

	芸術祭との関わり											人数合計
きっかけ	作品	勤務先	地域	資産	ワークショップ	来訪者	作品管理	アーティスト	こへび隊	その他	関わり無	
集落で頼まれた	14	1	11	3	1	2	3	5	2	0	0	17
勤務先の仕事	9	6	3	1	0	3	2	3	0	1	1	10
友人に誘われた	12	0	3	1	1	2	1	2	0	0	0	12
家族に誘われた	8	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	8
行政に誘われた	7	1	5	2	3	2	1	4	1	1	0	10
作家に誘われた	1	0	3	0	2	0	0	2	0	0	0	3
こへび隊に誘われた	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	0	2
興味があった	24	1	8	1	2	6	0	6	0	0	0	25
その他	2	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	3
	56	7	21	5	5	12	5	16	3	2	1	65

注：設問 3(1)と 3(2)のクロス集計．

表 3-1-12　集落の他の人より積極的に参加したか

$\chi^2(2)=7.871$, p=0.020

	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
積極的に協力	3	7.0	10	21.7	1	8.3	14	13.9
どちらかというと協力	9	20.9	17	37.0	4	33.3	30	29.7
協力していない	18	41.9	10	21.7	2	16.7	30	29.7
無回答	13	30.2	9	19.6	5	41.7	27	26.7
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 3(3).

3-1-4. 大地の芸術祭を通じた個人の生活の変化について

それでは，芸術祭は個人の活動や生活にどのような変化をもたらしたのか．具体的に，芸術祭を通じた個人の生活の具体的な変化として，「生活面での協力（a)」，「地域共同活動への参加（b)」，「挨拶・会話（c)」，「地域の人との付きあい（d)」，「同世代との交流（e)」，「異世代との交流（f)」，「同じ職業の人との交流（g)」，「他の職業の人との交流（h)」，「他の地域の人との交流（i)」，「地域内での信頼できる人の数（j)」，「地域への愛着（k)」，「地域の将来について考えること（l)」の変化について質問した[18]．結果は表 3-1-13 に示されている．

表 3-1-13 の通り，全体でみるとこれらの諸活動が「増えた」と回答した割合のうち，「異世代との交流（f)」が 21.8%，「他の地域 の人との交流（i)」が 19.8%と回答割合が相対的に高かった．これらの結果は，もともと存在していなかった世代や地域を超えた交流を芸術祭が促進した可能性を示唆している[19]．さらに，「地域への愛着（k)」（21.8%)，「将来について考えること（l)」（21.8%）についても，20%程度の回答があり，芸術祭が居住地域をより身近に感じるきかっけとなった可能性がある[20]．その一方で，「増えた」という回答割合が，10%を下回るのは，「生活面での協力（a)」（7.9%)，「同世代との交流（e)」（8.9%)，「同じ職業の人の交流（g)」（7.9%）などで，これらは地域住民の間にもともと存在していたとみることができるかもしれない．

芸術祭を通じた個人の活動や生活の具体的な変化に，地域による違いあるかどうかについては，表 3-1-13 に示した通り，「生活面での協力（a)」，「地域共同活動への参加（b)」，「挨拶・会話（c)」，「地域内での信頼できる人の数（j)」の項目で統計的に有意な違いがあることが確認された．具体的には，平地より山間地のほうが生活面での協力，地域共同活動への参加，挨拶・会話，地域内での信頼できる人の数が増えたとする回答割合が高いこ

18 アンケート調査票の設問 3(5)を参照されたい．

19 地域や世代を超えた人々のとの交流は，橋渡型のソーシャル･キャピタルに分類される（4 章）．このことは，芸術祭が橋渡型のソーシャル･キャピタルの形成につながる個人の生活の変化に影響を与えたことを示唆している．

20 地域内の共同活動への参加，交流，信頼は，結束型のソーシャル･キャピタルに分類される（4 章）．このことは，芸術祭が結束型のソーシャル･キャピタルの形成につながる個人の生活の変化に影響を与えたことを示唆している．

とが確認できる．これらの結果は，山間地のほうが，芸術祭がより地域内の協力，人々の交流，信頼を高める効果をもった可能性を示している．

勝村ほか(2008)では，芸術祭がもたらした具体的な個人の変化に対する肯定的な回答の割合は，「生活面での協力」が 19.4%，「挨拶」が 14.2%，「地域行事への参加」が 16.4%，「地域への愛着」が 16.0%，「価値観の広がり」が 17.8%，「地域の将来について考えること」が 22.2%であったことが示されている．しかし，2011 年の調査では，「生活面での協力」，「挨拶・会話」，「地域の将来について考えること」の回答割合が相対的に低い．

表 3-1-13　大地の芸術祭を通じた個人の生活の変化

		a.生活面での協力	b.活動への参加	c.挨拶・会話	d.付きあい	e.同世代との交流	f.異世代との交流	g.同職業との交流	h.異職業との交流	i.他地域の人との交流	j.信頼できる人数	k.地域への愛着	l.地域の将来
全地域	増えた	8 (7.9)	17 (16.8)	11 (10.9)	13 (12.9)	9 (8.9)	22 (21.8)	8 (7.9)	13 (12.9)	20 (19.8)	10 (9.9)	20 (19.8)	21 (20.8)
	変わらない	55 (54.5)	51 (50.5)	56 (55.4)	52 (51.5)	56 (55.4)	43 (42.6)	55 (54.5)	48 (47.5)	43 (42.6)	56 (55.4)	45 (44.6)	46 (45.5)
	減った	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	無回答	38 (37.6)	32 (31.7)	34 (33.7)	35 (34.7)	35 (34.7)	35 (34.7)	37 (36.6)	38 (37.6)	36 (35.6)	35 (34.7)	36 (35.6)	33 (32.7)
	合計	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)	101 (100)
平地	増えた	1 (2.3)	3 (7)	1 (2.3)	2 (4.7)	1 (2.3)	5 (11.6)	3 (7)	6 (14)	6 (14)	0 (0)	6 (14)	6 (14)
	変わらない	24 (55.8)	24 (55.8)	24 (55.8)	23 (53.5)	24 (55.8)	20 (46.5)	23 (53.5)	19 (44.2)	19 (44.2)	25 (58.1)	19 (44.2)	21 (48.8)
	減った	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2.3)
	無回答	18 (41.9)	16 (37.2)	18 (41.9)	18 (41.9)	18 (41.9)	18 (41.9)	17 (39.5)	18 (41.9)	18 (41.9)	18 (41.9)	18 (41.9)	15 (34.9)
	合計	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)	43 (100)
山間地	増えた	7 (15.2)	12 (26.1)	8 (17.4)	9 (19.6)	6 (13)	14 (30.4)	5 (10.9)	7 (15.2)	13 (28.3)	8 (17.4)	11 (23.9)	13 (28.3)
	変わらない	25 (54.3)	22 (47.8)	27 (58.7)	24 (52.2)	27 (58.7)	19 (41.3)	26 (56.5)	23 (50)	18 (39.1)	26 (56.5)	22 (47.8)	20 (43.5)
	減った	0 (0)	1 (2.2)	0 (0)	1 (2.2)	1 (2.2)	1 (2.2)	1 (2.2)	2 (4.3)	2 (4.3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	無回答	14 (30.4)	11 (23.9)	11 (23.9)	12 (26.1)	12 (26.1)	12 (26.1)	14 (30.4)	14 (30.4)	13 (28.3)	12 (26.1)	13 (28.3)	13 (28.3)
	合計	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)	46 (100)
検定	χ^2	3.717	5.547	4.067	4.201	3.455	4.009	1.074	1.623	3.57	6.805	0.598	3.215
	自由度	1	2	1	2	2	2	2	2	2	1	1	2
	確率	0.054	0.062	0.044	0.122	0.178	0.135	0.584	0.444	0.168	0.009	0.439	0.200

注：設問 3(5)．（　）内は%．検定は地域差の検定．

さらに，芸術祭が交友関係を拡大したのかどうかを質問したところ，表 3-1-14 の通り，25.7%が芸術祭を通じて新しい知り合いができたと回答した[21]．勝村ほか(2008)の 2006 年調査では 24.2%が新しい知り合いができたと回答しており，ほぼ同じ結果である．新しい知り合いができたかどうかには地域による違いが確認できない．

21 アンケート調査票の設問 3(6)～ (9)を参照されたい．

新しい知り合いのうち，最も交流のある 1 人の状況について確認したところ，表 3-1-15 の通り，「妻有地域の人」（34.6%），「アーティスト」（19.2%），「来訪者」（15.4%）の順で回答が多かった．アーティストと来訪者との交流は，芸術祭が地域外とのつながりを持つきっかけとなる効果があったことを示唆している．交流の手段については，メール（15.4%），家に来る（11.5%），電話（11.5%）の順で多く，付きあい方はさまざまである．頻度は，月に 1 回から年数回（42.3%）が最も多く，ついで，年に 1 回から数年に 1 回（23.1%）が多い．新しい友人が他地域の人であることを考えれば，この程度の頻度になることが理解できる．

表 3-1-14　芸術祭を通じた新しい知り合い

$\chi^2(1)=1.173$, p=0.279

	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
1　新しい友人ができた	8	18.6	15	32.6	3	25.0	26	25.7
2　できなかった	20	46.5	21	45.7	3	25.0	44	43.6
0　無回答	15	34.9	10	21.7	6	50.0	31	30.7
合計	43	100	46	100	12	100	101	100.0

注：設問 3 (6).

表 3-1-15　新しい知り合いとの関係

(1) 新しい知り合いのうち最も交流のある人

	地域の人	妻有の人	こへび隊	アーティスト	来訪者	その他	無回答	合計
回答数	2	9	1	5	4	0	5	26
	(7.7)	(34.6)	(3.8)	(19.2)	(15.4)	(0)	(19.2)	(100)

(2)新しい知り合いとの関係・つきあい

	家を訪ねる	家に来る	電話	手紙	メール	その他	無回答	合計
回答数	2	3	3	1	4	6	7	26
	(7.7)	(11.5)	(11.5)	(3.8)	(15.4)	(23.1)	(26.9)	(100)

(3)新しい知り合いとのつきあいの頻度

	～週数回	～月数回	～年数回	～数年1回	無回答	合計
回答数	0	2	11	6	7	26
	(0)	(7.7)	(42.3)	(23.1)	(26.9)	(100)

注：(　) 内は%．設問 3 (7) (8) (9).

3-2. 芸術祭との関わりと芸術祭を通じた地域と個人の生活の変化との関係

ここでは，地域の芸術祭との関わりと芸術祭を通じた地域の変化との関係（3-2-1 節），地域住民の生活の変化と地域環境や個人属性との関係（3-2-2 節），および地域住民の芸術祭との関わりと芸術祭を通じた住民の生活の変化との関係（3-2-3 節）を，それぞれクロス集計表を用いた分析を通じて明らかにする．

3-2-1. 地域としての芸術祭との関わりと芸術祭を通じた地域の変化との関係

地域として芸術祭に積極的に関わった地域とそうでない地域には，芸術祭を通じた地域の活動や生活環境の水準に違いが生じたのだろうか．地域としての芸術祭との関わりの程度と芸術祭を通じた地域の変化についてみると，表 3-2-1 に示した通り，地域が芸術祭に協力的だと答えた住民ほど，芸術祭を通じて地域の活動に変化があったと回答している．具体的には，地域としての芸術祭への協力度と芸術祭を通じた地域活動の変化を表す（3-1-2 節でみた）A～G の 7 つの設問（変数）との関係は，7 つすべてそれぞれの変数が互いに独立であるという帰無仮説を棄却した．(「女性の活躍（D)」は 10%有意水準で，「高齢者の活躍（E)」は 5%有意水準で，それ以外の 5 つはすべて 1%有意水準で帰無仮説を棄却.）ただし，すべての項目で地域の活動や環境が（芸術祭を通じて）「変わらない」と回答した割合が最大である．しかし，地域として芸術祭に「協力的」であるほど，芸術祭を通じた地域共同活動，共同活動への参加人数，挨拶・会話，女性の活躍，高齢者の活躍，地域内の活気，まとまりの増加という変化が地域に起こったと評価していることがみてとれる．

表 3-2-1　芸術祭を通じた地域の変化と地域としての芸術祭への協力度との関係

A：地域共同活動　　$\chi^2(2)= 16.141$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	17	20	0	37
%	45.9%	54.1%	0.0%	100.0%
全体%	85.0%	33.3%	0.0%	46.3%
どちらともいえない	1	17	0	18
%	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%
全体%	5.0%	28.3%	0.0%	22.5%
協力的でない	2	23	0	25
%	8.0%	92.0%	0.0%	100.0%
全体%	10.0%	38.3%	0.0%	31.3%
合計	20	60	0	80
%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%

B：地域共同活動への参加人数　　$\chi^2(4)= 18.111$, p=0.001

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	14	22	0	36
%	38.9%	61.1%	0.0%	100.0%
全体%	93.3%	36.1%	0.0%	46.8%
どちらともいえない	0	16	0	16
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	26.2%	0.0%	20.8%
協力的でない	1	23	1	25
%	4.0%	92.0%	4.0%	100.0%
全体%	6.7%	37.7%	100.0%	32.5%
合計	15	61	1	77
%	19.5%	79.2%	1.3%	100.0%

C：挨拶・会話　$\chi^2(2)= 9.835$, p=0.007

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	10	27	0	37
%	27.0%	73.0%	0.0%	100.0%
全体%	90.9%	40.3%	0.0%	47.4%
どちらともいえない	0	16	0	16
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	23.9%	0.0%	20.5%
協力的でない	1	24	0	25
%	4.0%	96.0%	0.0%	100.0%
全体%	9.1%	35.8%	0.0%	32.1%
合計	11	67	0	78
%	14.1%	85.9%	0.0%	100.0%

D：地域内での女性の活躍　$\chi^2(4)= 9.338$, p=0.053

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	11	24	0	35
%	31.4%	68.6%	0.0%	100.0%
全体%	78.6%	38.7%	0.0%	45.5%
どちらともいえない	1	15	0	16
%	6.3%	93.8%	0.0%	100.0%
全体%	7.1%	24.2%	0.0%	20.8%
協力的でない	2	23	1	26
%	7.7%	88.5%	3.8%	100.0%
全体%	14.3%	37.1%	100.0%	33.8%
合計	14	62	1	77
%	18.2%	80.5%	1.3%	100.0%

E：地域内での高齢者の活躍　$\chi^2(2)= 6.838$, p=0. 033

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	14	22	0	36
%	38.9%	61.1%	0.0%	100.0%
全体%	70.0%	36.7%	0.0%	45.0%
どちらともいえない	2	16	0	18
%	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
全体%	10.0%	26.7%	0.0%	22.5%
協力的でない	4	22	0	26
%	15.4%	84.6%	0.0%	100.0%
全体%	20.0%	36.7%	0.0%	32.5%
合計	20	60	0	80
%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%

F：地域内の活気　$\chi^2(4)= 21.433$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	18	19	0	37
%	48.6%	51.4%	0.0%	100.0%
全体%	90.0%	33.9%	0.0%	46.8%
どちらともいえない	1	14	1	16
%	6.3%	87.5%	6.3%	100.0%
全体%	5.0%	25.0%	33.3%	20.3%
協力的でない	1	23	2	26
%	3.8%	88.5%	7.7%	100.0%
全体%	5.0%	41.1%	66.7%	32.9%
合計	20	56	3	79
%	25.3%	70.9%	3.8%	100.0%

G：地域内のまとまり　$\chi^2(4)= 18.579$, p=0. 001

	増えた	変わらない	減った	合計
協力的	12	22	1	35
%	34.3%	62.9%	2.9%	100.0%
全体%	92.3%	37.3%	20.0%	45.5%
どちらともいえない	0	16	0	16
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	27.1%	0.0%	20.8%
協力的でない	1	21	4	26
%	3.8%	80.8%	15.4%	100.0%
全体%	7.7%	35.6%	80.0%	33.8%
合計	13	59	5	77
%	16.9%	76.6%	6.5%	100.0%

注：設問 2(1)と設問 2(3)のクロス集計.

3-2-2. 芸術祭との関わり，芸術祭を通じた個人生活の変化と個人属性との関係

3-1-3 節では，地域住民にはそれぞれ芸術祭との関わり方に違いがあることが明らかになった．具体的には，山間地に居住する住民ほど芸術祭に対してより積極的に参加する割合が高かった．さらに，3-1-4 節では，芸術祭を通じた個人の生活の変化にも違いがあることが明らかになった．具体的には，山間地に居住する住民ほど生活面での協力や地域共同活動への参加，地域での信頼できる人の数が増加したと回答した割合が高かった．個人の生活の変化は，個人属性の違いを反映したものとなるのだろうか.

芸術祭を通じた個人の生活の変化と個人属性との関係をみると，表 3-2-2 にまとめた通り，性別による違いはなく，年齢や学歴との間に関係がみられる（分析結果は省略）.

年齢による違いをみると，具体的には，年齢が上昇するにつれて，特に 65 歳以上の高齢者ほど，芸術祭を通じて，「a.生活面での協力」，「b.地域共同活動への参加」，「e.同世代との交流」，「f.異世代との交流」，「g.同じ職業の人との交流」，「i.他の地域の人との交流」，「j.地域内での信頼できる人の数」が増加したと回答している（無関係であるという帰無仮説をそれぞれ 10%，5%，1%，5%，5%，5%，1%で棄却）.

学歴による違いをみても，学歴が低い，つまり，中学校までの人ほど，芸術祭を通じて，「a.生活面での協力」，「b.地域共同活動への参加」，「c.挨拶・会話，地域の人との付きあい」，「d.同世代との交流」，「e,異世代との交流」，「f.同じ職業の人との交流」，「j.地域内での信頼できる人の数」が増加したと回答している（無関係であるという帰無仮説をそれぞれ 1%，1%，10%，1%，5%，10%，5%，1%で棄却）．ただし，この年齢と学歴の似た結果は，高齢者の学歴がほとんど中卒程度であることが関係しているとみられる．芸術祭への積極性やそれを通じた生活の変化は，世代による効果なのか年齢による効果なのかは，ここでは判別できない.

出身地の違いについては，地域出身者ほど，「a.生活面での協力」，「d.地域の人との付きあい」が増加したと回答している（無関係であるという帰無仮説をそれぞれ 10%，10%で棄却）．しかし，その他に出身地の違いによる芸術祭を通じた個人の生活の変化がみられない.

さらに，芸術祭への個人的な関わりの程度と，新しい友人との関係をみると，表 3-2-3 の通り，これらの間に関係がみられる（帰無仮説を 1%有意水準で棄却）．具体的には，芸術祭に積極的に関わった個人ほど，芸術祭を通じて新しい友人ができたと回答している．つまり，「どちらかというと協力」した人ではその 48.1%に新しい友人ができたのに対して，「積極的に協力」した人の 85.7%で新しい友人ができている．2006 年調査も同様の結果だった.

表 3-2-2 芸術祭を通じた個人の生活の変化と個人属性との関係

	性別	年齢	学歴	出身地	地域条件
a.生活面での協力	－	△	◎	△	○
b.共同活動への参加	－	○	◎	－	○
c.挨拶・会話	－	－	△	－	○
d.付きあい	－	－	◎	△	○
e.同世代との交流	－	◎	○	－	－
f.異世代との交流	－	○	△	－	－
g.同職業との交流	－	○	○	－	－
h.異職業との交流	－	－	－	－	－
i.他地域の人との交流	－	○	－	－	－
j.信頼できる人数	－	◎	◎	－	◎
k.地域への愛着	－	－	－	－	－
l.地域の将来	－	－	－	－	－

注：1.◎，○，△はそれぞれ 1%，5%，10%有意水準で帰無仮説を棄却，－は棄却できないケース．

2.設問 6 と設問 3(5)のクロス集計．

表 3-2-3　芸術祭への個人的な関わりと新しい友人

$\chi^2(2)= 28.888$, p=0. 000

	友人ができた	できなかった	合計
積極的に協力	12	2	14
%	85.7%	14.3%	100.0%
全体%	46.2%	4.7%	20.3%
どちらというと協力	13	14	27
%	48.1%	51.9%	100.0%
全体%	50.0%	32.6%	39.1%
協力していない	1	27	28
%	3.6%	96.4%	100.0%
全体%	3.8%	62.8%	40.6%
合計	26	43	69
	37.7%	62.3%	100.0%

注：設問 3(3)と設問 3(6)のクロス集計．

3-2-3. 芸術祭との関わりと芸術祭を通じた個人の生活の変化との関係

地域住民個人の芸術祭への関わり方の違いによって，個人の生活はいかなる影響を受けたのだろうか．ここでは，芸術祭に対するイメージの良し悪し，芸術祭への協力の程度，芸術祭を通じた新しい知り合いの有無によって，個人の活動や生活が受けた影響が違うかどうかを検定した結果を表 3-2-4 にまとめている（詳細は補表 3-2-4 を参照）．

まず，芸術祭のイメージと芸術祭を通じた個人の生活の変化との関係についてみると，芸術祭に対して良いイメージを持っている人ほど，「a.生活面での協力」，「c.挨拶・会話」，「k.地域への愛着」，「l.地域の将来について考えること」が増加したと回答している．

つぎに，芸術祭への個人的な協力の積極度と芸術祭を通じた個人の生活の変化との関係についてみると，芸術祭に積極的に協力した人ほど，「a.生活面での協力」，「f.異世代との交流」，「g.同じ職業の人との交流」，「h.他の職業との交流」，「i.他の地域の人との交流」，「j.地域内での信頼できる人の数」が増加したと回答している．

最後に，新しい友人の有無と芸術祭を通じた個人の生活の変化との関係についてみると，芸術祭を通じて新しい友人ができた人ほど，「a.生活面での協力」，「f.異世代との交流」，「g.同じ職業の人との交流」，「h.他の職業との交流」，「i.他の地域の人との交流」，「j.地域内での信頼できる人の数」，「k.地域への愛着」が増加したと回答している．

表 3-2-4 芸術祭を通じた個人の生活の変化と芸術祭に対する個人の関与との関係

	[1] 芸術祭のイメージ	[2] 個人的な協力の積極度	[3] 新しい友人の有無
a.生活面での協力	△	○	○
b.共同活動への参加	－	－	－
c.挨拶・会話	○	－	－
d.付きあい	－	－	－
e.同世代との交流	－	－	－
f.異世代との交流	－	◎	◎
g.同職業との交流	－	○	◎
h.異職業との交流	－	◎	◎
i.他地域の人との交流	－	◎	◎
j.信頼できる人数	－	◎	◎
k.地域への愛着	◎	－	○
l.地域の将来	◎	－	－

注：1. ◎，○，△はそれぞれ 1%，5%，10%有意水準で帰無仮説を棄却，－は棄却できないケース．

2. クロス集計表と仮説検定の結果は，補表 3-2-4 を参照．

3. 設問 1(1)，設問 3(3)，設問 3 (6)と設問 3(5)のクロス集計．

4. ソーシャル・キャピタルに関する調査結果

4 章では，アンケート結果から，地域におけるソーシャル・キャピタルの状況を明らかにする．そのために 4-1 節では，先行研究に基づいて，ソーシャル・キャピタルとソーシャル・キャピタルを表す代理変数について整理する．4-2 節では，アンケート結果から，十日町市の地域におけるソーシャル・キャピタルの状況を明らかにする．

4-1. ソーシャル・キャピタルについて

Putnam(1993)は，社会の効率性を改善するためのソーシャル・キャピタルの構成要素として，「信頼」，「規範」，「ネットワーク」を挙げている．地域住民同士の交流（ネットワーク活動）が盛んであれば，住民同士に信頼関係が生まれ，それよって互いに支え合うという規範が生まれ，地域活動や住民同士の助け合いが活発化することが期待できる[22]．

ソーシャル・キャピタルはまた，内部の結束を強くする閉鎖的で同質的なつながりと定義される結束型（bonding）と異質な者のつながりを広げる開放的で水平的なつながりと定義される橋渡型（bridging）とに分類される（西出，2010）．大地の芸術祭などの地域活性化プロジェクトが，結束型だけでなく，橋渡型ソーシャル・キャピタルの形成に寄与するか，あるいはそれにつながる変化をもたらすことができれば，地域外の人々との交流を促進し，それらがさらに広範で多様な信頼関係の構築や相互規範を生む可能性も期待できる．

本稿では，ソーシャル・キャピタルを，Ⅰ.つきあい・交流（ネットワーク），Ⅱ.信頼（社会的信頼），Ⅲ.社会参加（互酬性の規範），Ⅳ.その他のソーシャル・キャピタルとした．表 4-1-1 には，これら 4 つの要素とそれぞれに当てはまる設問（つまり代理変数），そして類型を整理している．具体的には，Ⅰ.つきあい・交流（ネットワーク）には，1.地域住民同士の交流，2.他地域の住民との交流，3.個人的な地域の人とのつきあい：程度，4.個人的な地域の人とつきあい：人数の各設問，Ⅱ.信頼（社会的信頼）には，1.地域で信頼できる人がどの程度いるか，2.一般に他人は信頼できるかの各設問，Ⅲ.社会参加（互酬性の規範）には，1.地域共同活動にどの程度参加しているか（集会所の清掃，神社・寺の管理，行事の運営等）の設問，Ⅳ.その他のソーシャル・キャピタルには，1.地域のまとまり，2.地域への愛着，3.地域での生活に満足しているか，4.これからも住み続けたいか，の各設問から得たデータをソーシャル・キャピタルを表す代理変数としている．

---

22 大地の芸術祭などの地域活性化プロジェクトについても，それが地域住民同士の交流を盛んにすることに寄与すれば，住民や地域に同じ効果をもたらす，つまり，地域のソーシャル・キャピタルの形成に寄与することが期待できる．本稿を含めた一連の研究として，鷲見（2012）では本稿と同じデータを用いて，大地の芸術祭とソーシャル・キャピタルとの関係を分析している．

ソーシャル・キャピタルに関する研究には，Putnam(1993)[23]，Putnam（1995）に代表される海外の研究以外にも，内閣府(2003)，内閣府(2005)，農林水産省(2007)，埴淵ら(2008)など既にいくつかの蓄積がある．内閣府(2003)，内閣府(2005)，農林水産省(2007)といったわが国の研究では，Putnam(1993)に基づき，ネットワーク，信頼，規範を表す指標を用いて，これらのソーシャル・キャピタルの水準と市民活動などとの間に相関関係があるかどうかを検証している．内閣府(2003)は，ソーシャル・キャピタルの水準（つきあい・交流，信頼，社会参加）とボランティア活動や市民活動との間に正の関係性を見いだしている．また，農林水産省の調査である農村におけるソーシャル・キャピタル研究会(2007)[24]は，農業地域や農家の特徴・属性とソーシャル・キャピタルの水準との関係を分析し，年齢が高い者のほうが地域への信頼度が高く，農業関係者のほうが近所づきあい等のネットワークが強く，また集落内の農業関連共同活動や互助的共同活動（地縁的な自治会活動など）への参加が高いことを明らかにしている．

表 4-1-1　ソーシャル・キャピタル（SC）とアンケートの設問

SC の要素	設　問（代理変数）	類型
Ⅰ：つきあい・交流 （ネットワーク）	1.地域住民同士の交流（設問 4(1)） 2.他地域の住民との交流（設問 4(2)） 3.個人的な地域の人とのつきあい：程度（設問 5(3)） 4.個人的な地域の人とのつきあい：人数（設問 5(4)）	・結束型 ・橋渡型 ・結束型 ・結束型
Ⅱ：信頼 （社会的信頼）	1.地域で信頼できる人がどの程度いるか（設問 4(3)） 2.一般に他人は信頼できるか（設問 5(2)）	・結束型 ・橋渡型
Ⅲ：社会参加 （互酬性の規範）	1.地域共同活動にどの程度参加しているか（設問 5(1)） （集会所の清掃，神社・寺の管理，行事の運営等）	・結束型
Ⅳ：その他	1.地域のまとまり（設問 4(4)） 2.地域への愛着（設問 4(5)） 3.地域での生活に満足しているか（設問 4(6)） 4.これからも住み続けたいか（設問 4(7)）	・結束型 ・結束型 ・結束型 ・結束型

[23] Putnam(1993)によれば，ソーシャル・キャピタルとは「協調的な諸活動を活発にする事によって社会の効率性を改善できる，信頼，規範，ネットワークといった社会組織の特徴」と定義される．

[24] この調査のサンプルの地域別構成は都市が 30%，平地農業地域が 44%，中山間地域が 26%である．

4-2. ソーシャル・キャピタルに関するアンケート調査結果

ここでは，前節のソーシャル・キャピタルの 4 つの特徴に該当する 11 変数について，その状況を明らかにする．表 4-2-1 には，これらのソーシャル・キャピタルの代理変数に対する回答数と割合，地域別の状況とが示されている．これらのソーシャル・キャピタルの代理変数に対する回答が肯定的であるほど，地域内のソーシャル・キャピタルの水準が高いことを示すものとする．

4-2-1. つきあい・交流について

地域住民のつきあい・交流の状況について明らかにしよう．

居住地域における住民同士の交流（Ⅰ-1）については，「ある程度存在すると思う」と回答した割合は全体の 61.4%と最も高く，「とても存在すると思う」と回答した割合を合わせると，78.2%に達する．地域別にみると，山間地で「とても存在すると思う」と回答した割合が平地より相対的に高いが，地域間に違いはみられない（無関係であるという帰無仮説を棄却できない）．

他地域の人との交流（Ⅰ-2）については，「ある程度思う」が 47.5%と最も高く，「とても存在すると思う」と回答した割合を合わせると，55.4%になる．「どちらともいえない」の割合も 21.8%と比較的高い．他地域との交流についても，地域間に違いはみられない（無関係であるという帰無仮説を棄却できない）．

地域の人とのつきあいの程度（Ⅰ-3）は，「日常的に立ち話」が 46.5%と最も高く，ついで「生活面での協力」が 29.7%である．「つきあいがない」はわずか 1%でしかない．地域別にみると，地域間の違いが存在する（無関係であるという帰無仮説を 5%有意水準で棄却）ことが統計的に明らかになった．具体的には，山間地で「生活面での協力」，「立ち話」と回答した割合が平地より高く，山間地の住民ほど他の地域住民とより深いつきあいを持っていること，つまり，高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．

つきあいをしている地域の住民の数（Ⅰ-4）については，「半分程度と面識・交流がある」が最も多く，「ほぼすべての人」と合わせると 76.2%となる．ここでも，地域内の人同士の強いつながりを示している．「ほとんどない」はわずか 2%にすぎない．地域別にみると，地域間の違いが存在する（無関係であるという帰無仮説を 1%有意水準で棄却）．具体的には，山間地で「ほぼすべてと」つきあいをしていると回答した割合が 52.5%と平地より 2 倍以上高く，山間地の住民ほどより多くの地域住民とつきあいを持っていること，つまり，高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．

地域の人々とのつきあい（Ⅰ-3，Ⅰ-4）について，本調査と農林水産省の調査(農村におけるソーシャル・キャピタル研究会，2007)とを比較すると両調査とも，つきあいの程度は，「生活面で協力」と「日常的な立ち話」を合わせた割合が 75%程度で同様の結果を示して

いる[25]．しかし，内閣府(2005)より，政令指定都市・区，市町，村別に集計された結果と比較すると，内閣府の調査では，3 つの居住地域区分すべての最頻値が「挨拶程度」であり，50%から 60%程度の回答が集中している．村になると，「挨拶程度」に止まらず，立ち話以上のつきあいの割合が 45%と高くなる．それに対して，本調査では，立ち話以上のつきあいの割合は 76%で，挨拶程度のつきあいしかしない住民の割合はわずかに 18%である．つきあう人数になると，本調査がほぼすべての人と半分程度で 75%程度になるのに対して，農林水産省の調査では，55%程度になっており，これらの結果から，本調査の対象地域の高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．

4-2-2. 信頼について

地域住民の信頼の状況について明らかにしよう．信頼は一般的な他人への信頼と，居住地域内の人々に対する信頼とを区別している．

一般に他人は信頼できるか（Ⅱ-1）については，「半分程度の人」が 40.6%と最も高く，「多くの人は信頼」と合わせると，77.2%と高い．「ほとんどは信頼できない」はゼロ％である．地域別にみると，一般的な信頼には地域間に違いはみられない（無関係であるという帰無仮説を棄却できない）ことが統計的に明らかになった．ここでも，一般的な他人への信頼について，(厳密には選択肢が異なるが) 本調査と農林水産省の調査とを比較すると，本調査が半分程度以上の人を信頼できると回答した割合が 80%程度に達するのに対して，農林水産省の調査では 40%超程度になっており，結束型のソーシャル・キャピタルに限らず，本調査の対象地域における高い橋渡型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．

地域で信頼できる人の数（Ⅱ-2）については，「半分程度の人」が 37.6%と最も高い．ついで，「少数の人」が 32.7%．「ほとんどすべての人」の回答割合も高く 21.8%あり，これらを合わせた半分程度以上の人を信頼できると回答した割合は，59.4%にもなる．地域別にみると，地域内の人々に対する信頼にも地域間に違いはみられない（無関係であるという帰無仮説を棄却できない）．本調査と農林水産省の調査とを比較すると，本調査がほとんどすべての人と半分程度の人を合わせた割合が 60%程度に達するのに対して，農林水産省の調査では 50%超程度になっており，本調査の対象地域のほうがわずかに高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．

4-2-3. 社会参加について

地域住民の社会参加の状況について明らかにしよう．

---

[25] 農村におけるソーシャル・キャピタル研究会（2007）では調査結果の棒グラフだけが示されていて，具体的な数値が記載されていないため，目視による判断をしている．

地域の共同活動にどの程度参加しているか(Ⅲ-1)について,「可能な範囲で参加」が 60.4%で最も高く,「積極的に参加」と合わせると，80.2%とかなり高い参加率になる.

地域別にみると，地域間の違いが存在する（無関係であるという帰無仮説を 5%有意水準で棄却）．具体的には，山間地のほうが「積極的に参加」と「可能な範囲で参加」に回答した割合が平地より高く,「まったく参加しない」と回答した割合が低い．山間地の住民ほど社会参加の水準が高いことが確認できる.

地域の地縁的な活動への参加について，本調査と農林水産省の調査とを比較すると，本調査が参加する割合が 80%に達するのに対して，農林水産省の調査では,（自治会などへの参加，集会所の清掃への参加がともに）50%程度になっており，社会参加という面でも，本調査の地域のほうがかなり高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる.

4-2-4. その他のソーシャル・キャピタルについて

地域のまとまりや，地域への愛着などの結束型のソーシャル・キャピタルの状況について明らかにしよう.

地域のまとまり（Ⅳ-1）については,「ある程度ある」が 40.6%と最も高い.「とてもある」（15.8%）と合わせると 56.4%と過半数を超える．地域への愛着（Ⅳ-2）については,「ある程度愛着がある」が 48.5%と最も高い.「とてもある」(33.7%）と合わせると 82.2%に達する． 地域に対する満足（Ⅳ-3）については,「ある程度満足がある」が 64.4%と最も高い.「とても満足がある」(9.9%）と合わせると 74.3%に達する．ただし，満足度では「とても満足がある」が少なく,「どちらともいえない」が 14.9%と若干高いため，地域には愛着があっても,（中山間地域などの地理的条件や高齢化など現状から）「とても満足」できるとはいえない状況があるかもしれない. これからも居住する地域に住み続けたいどうか(Ⅳ-4)については,「住み続けたい」が 62.4%と最も高く，地域への愛着や満足の高さを裏付ける結果となった.

地域への愛着（Ⅳ-2）について，本調査と農林水産省の調査とを比較すると，本調査が愛着がある割合が 82%に達するのに対して，農林水産省の調査では 60%程度になっており，本調査の地域のほうが高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在を確認できる．一方，これからも居住する地域に住み続けたいどうか（Ⅳ-4）については，60%程度で同様の結果を示している.

これらを地域別にみると,「地域内のまとまり」,「地域への愛着」,「地域に対する満足」,「これからも地域に住み続けけたいかどうか」には地域間に違いがみられない（無関係であるという帰無仮説を棄却できない）.

表 4-2-1　ソーシャル・キャピタルの状況

Ⅰ-1 地域には住民同士の交流　　$\chi^2(2)=0.123$, p=0.941

住民同士の交流	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
とても思う	4	9.3	11	23.9	2	16.7	17	16.8
ある程度思う	29	67.4	24	52.2	9	75.0	62	61.4
どちらともいえない	3	7.0	4	8.7	0	0.0	7	6.9
あまり思わない	3	7.0	4	8.7	1	8.3	8	7.9
まったく思わない	1	2.3	1	2.2	0	0.0	2	2.0
無回答	3	7.0	2	4.3	0	0.0	5	5.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(1)．地域の違いに関する独立性は各設問の選択肢を 3 区分（肯定，中立，否定）して検定．無回答，不明を除いたケース．以下も同じ．

Ⅰ-2 他の地域の人たちとの交流　　$\chi^2(2)=1.105$, p=0.576

他地域住民との交流	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
とても思う	4	9.3	4	8.7	0	0.0	8	7.9
ある程度思う	21	48.8	20	43.5	7	58.3	48	47.5
どちらともいえない	7	16.3	12	26.1	3	25.0	22	21.8
あまり思わない	6	14.0	8	17.4	2	16.7	16	15.8
まったく思わない	2	4.7	1	2.2	0	0.0	3	3.0
無回答	3	7.0	1	2.2	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(2).

Ⅰ-3 地域の人とのつきあいの程度　　$\chi^2(3)=9.028$, p=0.029

地域の人とのつきあい	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
生活面での協力	10	23.3	14	30.4	6	50.0	30	29.7
立ち話	16	37.2	25	54.3	6	50.0	47	46.5
挨拶	14	32.6	4	8.7	0	0.0	18	17.8
つきあいがない	0	0.0	1	2.2	0	0.0	1	1.0
無回答	3	7.0	2	4.3	0	0.0	5	5.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 5(3).

Ⅰ-4 つきあいをしている地域内の人数　　$\chi^2(3)=13.096$, p=0.004

つきあい人数	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
ほぼすべてと	9	20.9	24	52.2	3	25.0	36	35.6
半分と面識・交流	18	41.9	16	34.8	7	58.3	41	40.6
ごく少数	13	30.2	3	6.5	2	16.7	18	17.8
ほとんどない	1	2.3	1	2.2	0	0.0	2	2.0
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 5(4).

Ⅱ-1 一般に他人を信頼できるか　$\chi^2(4)=5.505$, p=0.239

他人への信頼	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
ほとんどの人は信頼	0	0.0	4	8.7	0	0.0	4	4.0
多くの人は信頼	18	41.9	15	32.6	4	33.3	37	36.6
半分程度の人は信頼	17	39.5	17	37.0	7	58.3	41	40.6
多くはできない	2	4.7	1	2.2	1	8.3	4	4.0
ほとんどはできない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
わからない	3	7.0	6	13.0	0	0.0	9	8.9
無回答	3	7.0	3	6.5	0	0.0	6	5.9
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 5(2).

Ⅱ-2 地域で信頼できる人の数　$\chi^2(2)=3.837$, p=0.147

信頼できる人数	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
ほとんどすべての人	11	25.6	11	23.9	0	0.0	22	21.8
半分程度の人	11	25.6	22	47.8	5	41.7	38	37.6
少数の人	17	39.5	10	21.7	6	50.0	33	32.7
誰もいない	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
無回答	2	4.7	1	2.2	1	8.3	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(3).

Ⅲ-1 地域共同活動への参加の程度　$\chi^2(2)=9.191$, p=0.010.

地域活動への参加	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
積極的に参加	7	16.3	10	21.7	3	25.0	20	19.8
可能な範囲で	23	53.5	32	69.6	6	50.0	61	60.4
あまり参加しない	5	11.6	2	4.3	3	25.0	10	9.9
まったく	6	14.0	0	0.0	0	0.0	6	5.9
活動自体ない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 5(1).

Ⅳ-1 他の地域と比べた地域のまとまり　$\chi^2(2)=3.215$, p=0.200

地域のまとまり	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
とても思う	1	2.3	14	30.4	1	8.3	16	15.8
ある程度思う	25	58.1	10	21.7	6	50.0	41	40.6
どちらともいえない	11	25.6	10	21.7	4	33.3	25	24.8
あまり思わない	3	7.0	9	19.6	1	8.3	13	12.9
まったく思わない	1	2.3	2	4.3	0	0.0	3	3.0
無回答	2	4.7	1	2.2	0	0.0	3	3.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(4).

Ⅳ-2 居住する地域への愛着　　$\chi^2(2)=2.166$, p=0.339

地域への愛着	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
とても愛着がある	15	34.9	16	34.8	3	25.0	34	33.7
ある程度ある	22	51.2	20	43.5	7	58.3	49	48.5
どちらともいえない	4	9.3	8	17.4	1	8.3	13	12.9
あまりない	0	0.0	1	2.2	1	8.3	2	2.0
まったくない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	2	4.7	1	2.2	0	0.0	3	3.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(5).

Ⅳ-3　居住する地域への満足　　$\chi^2(2)=2.386$, p=0.303

地域への満足	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
とても満足がある	6	14.0	4	8.7	0	0.0	10	9.9
ある程度ある	28	65.1	27	58.7	10	83.3	65	64.4
どちらともいえない	5	11.6	9	19.6	1	8.3	15	14.9
あまりない	2	4.7	3	6.5	1	8.3	6	5.9
まったくない	0	0.0	2	4.3	0	0.0	2	2.0
無回答	2	4.7	1	2.2	0	0.0	3	3.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(6).

Ⅳ-4　地域に住み続けたいか　　$\chi^2(2)=0.009$, p=0.924

地域に住み続けたいか	平地	%	山間地	%	不明	%	回答数	%
住み続けたい	28	65.1	27	58.7	8	66.7	63	62.4
どちらともいえない	11	25.6	16	34.8	4	33.3	31	30.7
住み続けたくない	2	4.7	2	4.3	0	0.0	4	4.0
無回答	2	4.7	1	2.2	0	0.0	3	3.0
合計	43	100	46	100	12	100	101	100

注：設問 4(7).

4-2-5.ソーシャル・キャピタルと個人属性との関係

2011 年末のアンケート調査から，ソーシャル・キャピタルと個人属性との関係についてみてみよう．表 4-2-2 の通り（結果は省略），性別は「地域で信頼できる人の数」（10%有意水準で帰無仮説を棄却），年齢は「共同活動への参加の程度」（5%有意水準），学歴は「現在の居住地に今後も住み続けたいか」（5%有意水準），出身地は「地域で信頼できる人の数」（10%有意水準）と関係がみられる．つまり，男性であるほど地域で信頼できる人の数が多く，年齢が高いほど地域共同活動への参加が高く，学歴が低いほど現在の居住地に今後も

住み続けたい意向が高く，地域内出身者ほど地域で信頼できる人の数が多い傾向があることが確認された．

ただし，これら以外には個人属性の違いによる関係がみられなかった．地域の地理条件については，「地域の人とのつきあいの程度」，「地域の人とつきあっている人数」，「地域共同活動への参加」との間に地域による違いがみられた．

表 4-2-2　ソーシャル・キャピタルと個人属性との関係

	変数	性別	年齢	学歴	出身地	地域
Ⅰ	1.地域住民同士の交流	―	―	―	―	―
	2.他地域の住民との交流	―	―	―	―	―
	3.個人的な地域の人とのつきあい：程度	―	―	―	―	○
	4.個人的な地域の人とのつきあい：人数	―	―	―	―	◎
Ⅱ	1.地域で信頼できる人の数	△	―	―	△	―
	2.一般に他人は信頼できるか	―	―	―	―	―
Ⅲ	1.地域共同活動への参加の程度	―	○	―	―	○
Ⅳ	1.地域のまとまり	―	―	―	―	―
	2.地域への愛着	―	―	―	―	―
	3.地域での生活に満足しているか	―	―	―	―	―
	4.これからも住み続けたいか	―	―	○	―	―

注：1. ◎，○，△はそれぞれ 1%，5%，10%有意水準で帰無仮説を棄却，―は棄却できないケース．

2. 設問 4，5 と設問 6 とのクロス集計．検定結果の詳細は省略．

5. おわりに：まとめと課題

本稿のまとめとして，5-1 節では大地の芸術祭について，5-2 節では地域のソーシャル・キャピタルについて，3 章と 4 章でみたアンケート調査結果に基づき考察する．最後に，5-3 節では課題を整理する．

5-1. 大地の芸術祭について

地域住民の半数以上は，大地の芸術祭に対して良い印象を持っており，芸術祭に対する悪いイメージは 1 割程度でしかない．肯定的な評価には，アート作品やアーティスト，来訪者やこへび隊といった地域外からもたらされた変化に対するものが多い．否定的な意見の一部には，なぜ現代アートなのかという理解の難しさや，そのことからくる税金投入に対する不信感などがある．それでも，芸術祭は地域住民には肯定的に受け入れられていると言えよう．地域住民の評価は，青木(2011)が示したアートプロジェクトを通じた地域活性化のプロセス（メカニズム）とも合致している．つまり，現代アートは一般には受け入れられにくく，当初は住民から低い評価を得るが，地域からの来訪者が地域資源を高く評価すること（外部刺激）によって，地域や地域資源の価値が再評価され，地域住民にとっての誇りが高まる．さらに，それによって現代アートを新たな地域資源としても認識するようになる．

また，芸術祭が今後も継続することに対しても，同様に肯定的な意見がみられている．

これらのことを裏付ける証拠がアンケート調査結果から明らかになっている．

まず，芸術祭が地域の活動に与えた影響についてみると，3-1-2 節では，芸術祭を通じて地域における共同活動や高齢者の活躍が増えたり，活気が高まったりしたと回答した割合が高いことが明らかになった．また，これらには地域による違いが現れており，山間地ほど，社会参加や地域内の活気が促進されたことが明らかになった．特に，芸術祭は，高齢化が進んでいる山間地での高齢者の活躍を促進し，地域を活性化させる効果をもったことを示している．この効果が人口減少と高齢化が著しい山間地の集落機能の維持という点で意味するところは大きい．というのは，かりに芸術祭との関わりがなければ，高齢者の活動は停滞して，高齢化した地域の住民の社会参加が停滞し，集落機能が低下していた可能性があるためである．さらに，3-2-1 節では，地域として芸術祭に協力的と答えた住民ほど，芸術祭を通じて，地域協同活動と参加人数，高齢者の活躍，地域内の活気やまとまりに関して，地域内に好ましい変化があったと評価している．

つぎに，芸術祭が個人の生活に与えた影響についてみると，3-1-4 節でみたように，特に芸術祭が異世代や地域を超えた人々の交流を促進した可能性を指摘できる．この効果には，地域による違いは見られない（表 3-1-13 参照）．また，3-2-3 節では，芸術祭に積極的に協力した人ほど，異世代との交流，他の職業との交流，他の地域の人との交流を増加させて

いる．ということは，平地であるか，山間地であるかに関係なく，芸術祭は，もともと存在していなかった外部の人々とのつながり，つまり，橋渡型のソーシャル・キャピタルの形成につながる人々の活動の好ましい変化に貢献した可能性があるといえる．同様に，3-2-3 節では，芸術祭に積極的に協力した人ほど，生活面での協力，同じ職業の人との交流，地域内での信頼できる人の数（これらはつまり結束型のソーシャル・キャピタルの形成につながる個人の生活の変化）が増加したと回答している．

3-1-4 節で地域による違いがみられたのは，地域における社会参加と信頼，つまり結束型のソーシャル・キャピタルの形成につながる個人の生活の変化であり，山間地ほど芸術祭がこれらを促進する効果をもったといえる．

それでは，なぜ山間地ほど地域住民の芸術祭への参加が多く，芸術祭を通じた好ましい変化（社会参加と信頼の高まり）が多くみられるのか．山間地では，日常的に共同作業にかかわる機会が必然的に多くなり，こうした活動を通じて，地域住民同士の交流や信頼，規範が既に構築されていると考えられる．すなわち，山間地には高いソーシャル・キャピタルの蓄積があり，そのため，芸術祭という交流のきっかけが与えられたとき，さらに集落内の人々の交流を促進したり，地域住民の人々の対する信頼性を高めたりする効果をもったのではないかと推察される．

5-2. ソーシャル・キャピタルについて

4-2 節では，本アンケート調査と農水省や内閣府の調査とを比較を通じて，つきあい・交流，信頼，社会参加，まとまりなどのソーシャル・キャピタルが，十日町市の調査対象地域には高水準で蓄積されていることが示された．具体的には，高い地域住民のつきあいの程度や人数，地域住民への信頼，社会参加，地域への愛着から，本調査の対象地域における高い結束型のソーシャル・キャピタルの存在が，さらには高い他人への一般信頼から，高い橋渡型のソーシャル・キャピタルの存在が確認された．

ただし，この結果には，本サンプルには山間地住民と高齢者層の回答者割合が高いことが影響している可能性がある．農水省や内閣府，および鷲見(2010)の調査では，村部，農業者，山間地，高年齢層のほうが，これらのソーシャル・キャピタルの変数に対する肯定的な回答割合が高いことが明らかにされている．地域のソーシャル・キャピタルの水準が，個人の属性等によって決まり，地域の住民構成に影響を受ける部分を構成的な経路といい，地域の環境や地域性から決まる部分を文脈的な経路という（埴淵ほか，2008 を参照）が，本調査では，農業者や高齢者，山間地住民の回答者が多いことによって，構成的な経路と地域の文脈的な経路の両方が十日町市の高いソーシャル・キャピタルに影響しているとみることができる．

5-3. 今後の課題

最後に，第5回大地の芸術祭開催時の2012年調査と一連の研究のための課題を整理する．

サンプル抽出の問題がある．芸術祭の作品が設置された地域にアンケート調査を実施するケースと十日町市・津南町全体に母集団を反映するかたちでアンケート調査を実施するケースとでは，サンプル構成に大きな違いが生じる．2006年調査は前者に比重が置かれていたため，山間地のサンプルが 60%以上となっている．これらは分析目的に依存する．たとえば，十日町市・津南町全域を対象とした，地域住民の芸術祭に対する評価やソーシャル・キャピタルの状況の把握を中心に分析をするか，あるいは限界集落と呼ばれる中山間地の集落機能の維持についての芸術祭の果たした影響や評価を研究の目的とするか，などである．いずれにせよ，サンプリングの方法は本調査に向けた課題である．

本アンケート調査の場合，回答を依頼した地域住民は，十日町市で活動するグループに所属しているため，地域内の住民同士の交流も，地域外の住民との交流も，地域活動への参加についても盛んに行なっている人々が，サンプルの多数を占めている．そのため，たとえば「交流がある」といった肯定的な回答の割合が極めて高くなってしまうというバイアスがかかっている可能性がある．さらに，ソーシャル・キャピタルの調査には，構成的経路と文脈的経路の両方の影響も考慮する必要がある．そのためには，地域や個人の属性等がコントロールされなければならない．

本稿を含めた一連の研究の目的は，2000年以降，地域活性化を目的として継続的に開催されてきた大地の芸術祭が，ソーシャル・キャピタルの形成に寄与したかどうかを分析することである．本稿では，分析上の問題から留保条件つきながら，大地の芸術祭がソーシャル・キャピタルの形成につながる好ましい変化を地域の活動や個人の生活にもたらしたことが確認できる．しかし，鷲見（2012）では本稿と同一データを用いて，大地の芸術祭とソーシャル・キャピタルとの関係性とクロス分析で確認しているが，必ずしも明確な関係はみられていない．2006年調査データでは，勝村ほか（2008）が，大地の芸術祭と地域づくりとの関係を表すクロス表を用いた分析ながら，アートイベントが住民ネットワークの構築や地域づくりに影響を持つという一定の関係性を導き出している．鷲見（2010）は，信頼，社会参加，地域のまとまりをソーシャル・キャピタルとして，大地の芸術祭の地域活性化効果を分析している．具体的には，アンケート調査項目の性質を考慮した順序プロビットモデルを用いて，大地の芸術祭が地域のソーシャル・キャピタルの形成に寄与したことを統計的に明らかにしている．2006年調査データを用いた鷲見（2010）との比較分析が2012年調査の課題である．

さらに，地域活性化を目的としたアートプロジェクト（アートイベント）とアート以外のプロジェクトとの間に地域活性化に関する効果に違いがあるのかどうか，またアートプロジェクトの利点とは何か，といった課題についても今後検討していく必要がある．

参考文献

青木惠之祐(2011)「ビジュアルアートを活用した地域活性化のプロセスモデル」『文化経済学』第 8 巻第 1 号，文化経済学会

大地の芸術祭実行委員会（2000）「第 1 回大地の芸術祭総括報告書」

大地の芸術祭実行委員会（2003）「第 2 回大地の芸術祭総括報告書」

大地の芸術祭実行委員会（2006）「第 3 回大地の芸術祭総括報告書」

大地の芸術祭実行委員会（2010）「第 4 回大地の芸術祭総括報告書」

埴淵知哉，市田行信，平井寛，近藤克則(2008)「ソーシャル・キャピタルと地域」『ソーシャル・キャピタルの潜在力』，稲葉陽二編著，日本評論社

勝村（松本）文子，田中鮎夢，吉川郷主，西前出，水野啓，小林槇太郎（2008）「住民によるアートプロジェクトの評価とその社会的要因―大地の芸術祭妻有トリエンナーレを事例として―」『文化経済学』第 6 巻第 1 号，文化経済学会

内閣府国民生活局（2003）「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」（平成 14 年度　内閣府委託調査）

内閣府経済社会総合研究所編（2005）「コミュニティー機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書」（平成 17 年 8 月内閣府委託調査）

南雲洋一（2008）「越後妻有トリエンナーレ　大地の芸術祭の便益評価」，2007 年度新潟大学大学院現代社会文化研究科マネジメント専攻修士論文

西出優子（2010）「ソーシャル・キャピタルと中山間地域」『地域開発』Vol.550，日本地域開発センター

農村におけるソーシャル・キャピタル研究会（2007）「農村のソーシャル・キャピタル」農林水産省農村振興局

Putnam,R.(1993)*Making Democracy Work: Civic Transitions in Modern Italy*, Princeton University Press（河田潤一訳[2001]『哲学する民主主義』NTT 出版）

Putnam,R.(1995)“Bowling Alone: America’s Declining Social Capital”, *Journal of Democracy*,6:1,January（坂本・山内訳[2004]「ひとりでボウリングする」『ソーシャル・キャピタル』（宮川・大守編）東洋経済新報社）

鷲見英司(2010)「中山間地域におけるアートイベントとソーシャル・キャピタル形成の要因分析」『新潟大学経済論集』第 89 巻第 2010- I 号

鷲見英司(2012)「中山間地域におけるアートプロジェクトと地域活性化 －越後妻有大地の芸術祭を事例として－」『公共選択』第 58 号（近刊予定）

補表，アンケート調査票

補表 3-2-4 芸術祭を通じた個人の生活の変化と芸術祭に対する個人の関与との関係

[1] 個人の芸術祭に対するイメージ

a：生活面での協力　　$\chi^2(2)= 4.926$, p=0.085

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	7	30	0	37
%	18.9%	81.1%	0.0%	100.0%
全体%	100.0%	56.6%	0.0%	61.7%
どちらでもない	0	16	0	16
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	30.2%	0.0%	26.7%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	13.2%	0.0%	11.7%
合計	7	53	0	60
	11.7%	88.3%	0.0%	100.0%

b：地域協同活動への参加　　$\chi^2(4)= 7.039$, p=0.134

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	14	26	1	41
%	34.1%	63.4%	2.4%	100.0%
全体%	87.5%	53.1%	100.0%	62.1%
どちらでもない	2	16	0	18
%	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
全体%	12.5%	32.7%	0.0%	27.3%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	14.3%	0.0%	10.6%
合計	16	49	1	66
	24.2%	74.2%	1.5%	100.0%

c：挨拶・会話　　$\chi^2(2)= 7.751$, p=0.021

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	11	30	0	41
%	26.8%	73.2%	0.0%	100.0%
全体%	100.0%	55.6%	0.0%	63.1%
どちらでもない	0	17	0	17
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	31.5%	0.0%	26.2%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	13.0%	0.0%	10.8%
合計	11	54	0	65
	16.9%	83.1%	0.0%	100.0%

d：地域の人との付きあい　　$\chi^2(4)= 7.176$, p=0.127

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	12	27	1	40
%	30.0%	67.5%	2.5%	100.0%
全体%	92.3%	54.0%	100.0%	62.5%
どちらでもない	1	16	0	17
%	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
全体%	7.7%	32.0%	0.0%	26.6%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	14.0%	0.0%	10.9%
合計	13	50	1	64
	20.3%	78.1%	1.6%	100.0%

e：同世代との交流　$\chi^2(4)= 6.462$, p=0.167

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	8	30	1	39
%	20.5%	76.9%	2.6%	100.0%
全体%	100.0%	55.6%	100.0%	61.9%
どちらでもない	0	17	0	17
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	31.5%	0.0%	27.0%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	13.0%	0.0%	11.1%
合計	8	54	1	63
	12.7%	85.7%	1.6%	100.0%

f：異世代との交流　$\chi^2(4)= 2.257$, p=0.689

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	13	25	1	39
%	33.3%	64.1%	2.6%	100.0%
全体%	61.9%	61.0%	100.0%	61.9%
どちらでもない	7	10	0	17
%	41.2%	58.8%	0.0%	100.0%
全体%	33.3%	24.4%	0.0%	27.0%
悪い	1	6	0	7
%	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%
全体%	4.8%	14.6%	0.0%	11.1%
合計	21	41	1	63
	33.3%	65.1%	1.6%	100.0%

g：同じ職業の人との交流　$\chi^2(4)= 3.592$, p=0.464

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	7	30	1	38
%	18.4%	78.9%	2.6%	100.0%
全体%	87.5%	56.6%	100.0%	61.3%
どちらでもない	1	16	0	17
%	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
全体%	12.5%	30.2%	0.0%	27.4%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	13.2%	0.0%	11.3%
合計	8	53	1	62
	12.9%	85.5%	1.6%	100.0%

h：他の職業の人との交流　$\chi^2(4)= 1.789$, p=0.775

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	9	27	2	38
%	23.7%	71.1%	5.3%	100.0%
全体%	69.2%	58.7%	100.0%	62.3%
どちらでもない	3	13	0	16
%	18.8%	81.3%	0.0%	100.0%
全体%	23.1%	28.3%	0.0%	26.2%
悪い	1	6	0	7
%	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%
全体%	7.7%	13.0%	0.0%	11.5%
合計	13	46	2	61
	21.3%	75.4%	3.3%	100.0%

i：他の地域の人との交流　$\chi^2(4)= 6.638$, p=0.156

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	16	22	2	40
%	40.0%	55.0%	5.0%	100.0%
全体%	80.0%	53.7%	100.0%	63.5%
どちらでもない	4	12	0	16
%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
全体%	20.0%	29.3%	0.0%	25.4%
悪い	0	7	0	7
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	17.1%	0.0%	11.1%
合計	20	41	2	63
	31.7%	65.1%	3.2%	100.0%

j：地域内での信頼できる人の数　　$\chi^2(2)= 1.814$, p=0.404

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	8	32	0	40
%	20.0%	80.0%	0.0%	100.0%
全体%	80.0%	59.3%	0.0%	62.5%
どちらでもない	1	16	0	17
%	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
全体%	10.0%	29.6%	0.0%	26.6%
悪い	1	6	0	7
%	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%
全体%	10.0%	11.1%	0.0%	10.9%
合計	10	54	0	64
	15.6%	84.4%	0.0%	100.0%

k：地域への愛着　　$\chi^2(2)= 9.969$, p=0.007

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	18	21	0	39
%	46.2%	53.8%	0.0%	100.0%
全体%	90.0%	48.8%	0.0%	61.9%
どちらでもない	1	16	0	17
%	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
全体%	5.0%	37.2%	0.0%	27.0%
悪い	1	6	0	7
%	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%
全体%	5.0%	14.0%	0.0%	11.1%
合計	20	43	0	63
	31.7%	68.3%	0.0%	100.0%

l：地域の将来について考えること　　$\chi^2(4)= 14.917$, p=0.005

	増えた	変わらない	減った	合計
良い	20	21	1	42
%	47.6%	50.0%	2.4%	100.0%
全体%	95.2%	47.7%	100.0%	63.6%
どちらでもない	0	17	0	17
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	38.6%	0.0%	25.8%
悪い	1	6	0	7
%	14.3%	85.7%	0.0%	100.0%
全体%	4.8%	13.6%	0.0%	10.6%
合計	21	44	1	66
	31.8%	66.7%	1.5%	100.0%

[2] 個人の芸術祭への参加の程度

a：生活面での協力　　$\chi^2(2)= 6.458$, p=0. 040

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	4	8	0	12
%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
全体%	50.0%	14.5%	0.0%	19.0%
どちらというと協力	3	22	0	25
%	12.0%	88.0%	0.0%	100.0%
全体%	37.5%	40.0%	0.0%	39.7%
協力していない	1	25	0	26
%	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
全体%	12.5%	45.5%	0.0%	41.3%
合計	8	55	0	63
	12.7%	87.3%	0.0%	100.0%

b：地域協同活動への参加　　$\chi^2(4)= 7.23$, p=0.124

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	3	10	0	13
%	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%
全体%	17.6%	19.6%	0.0%	18.8%
どちらというと協力	11	17	1	29
%	37.9%	58.6%	3.4%	100.0%
全体%	64.7%	33.3%	100.0%	42.0%
協力していない	3	24	0	27
%	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
全体%	17.6%	47.1%	0.0%	39.1%
合計	17	51	1	69
%	24.6%	73.9%	1.4%	100.0%

c：挨拶・会話　$\chi^2(2)= 3.594$, p=0.166

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	4	9	0	13
%	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%
全体%	40.0%	16.1%	0.0%	19.7%
どちらというと協力	4	23	0	27
%	14.8%	85.2%	0.0%	100.0%
全体%	40.0%	41.1%	0.0%	40.9%
協力していない	2	24	0	26
%	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
全体%	20.0%	42.9%	0.0%	39.4%
合計	10	56	0	66
%	15.2%	84.8%	0.0%	100.0%

d：地域の人との付きあい　$\chi^2(4)= 5.684$, p=0.224

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	4	9	0	13
%	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%
全体%	30.8%	17.3%	0.0%	19.7%
どちらというと協力	7	19	1	27
%	25.9%	70.4%	3.7%	100.0%
全体%	53.8%	36.5%	100.0%	40.9%
協力していない	2	24	0	26
%	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
全体%	15.4%	46.2%	0.0%	39.4%
合計	13	52	1	66
%	19.7%	78.8%	1.5%	100.0%

e：同世代との交流　$\chi^2(4)= 4.868$, p=0.301

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	3	10	0	13
%	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%
全体%	33.3%	17.9%	0.0%	19.7%
どちらというと協力	5	22	1	28
%	17.9%	78.6%	3.6%	100.0%
全体%	55.6%	39.3%	100.0%	42.4%
協力していない	1	24	0	25
%	4.0%	96.0%	0.0%	100.0%
全体%	11.1%	42.9%	0.0%	37.9%
合計	9	56	1	66
%	13.6%	84.8%	1.5%	100.0%

f：異世代との交流　$\chi^2(4)= 15.773$, p=0. 003

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	8	5	0	13
%	61.5%	38.5%	0.0%	100.0%
全体%	36.4%	11.6%	0.0%	19.7%
どちらというと協力	12	14	1	27
%	44.4%	51.9%	3.7%	100.0%
全体%	54.5%	32.6%	100.0%	40.9%
協力していない	2	24	0	26
%	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
全体%	9.1%	55.8%	0.0%	39.4%
合計	22	43	1	66
%	33.3%	65.2%	1.5%	100.0%

g：同じ職業の人との交流　$\chi^2(4)= 13.216$, p=0.010

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	5	7	0	12
%	41.7%	58.3%	0.0%	100.0%
全体%	62.5%	12.7%	0.0%	18.8%
どちらというと協力	2	22	1	25
%	8.0%	88.0%	4.0%	100.0%
全体%	25.0%	40.0%	100.0%	39.1%
協力していない	1	26	0	27
%	3.7%	96.3%	0.0%	100.0%
全体%	12.5%	47.3%	0.0%	42.2%
合計	8	55	1	64
%	12.5%	85.9%	1.6%	100.0%

h：他の職業の人との交流　　$\chi^2(4)= 14.404$, p=0.006

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	6	6	0	12
%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
全体%	46.2%	12.5%	0.0%	19.0%
どちらというと協力	6	17	2	25
%	24.0%	68.0%	8.0%	100.0%
全体%	46.2%	35.4%	100.0%	39.7%
協力していない	1	25	0	26
%	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
全体%	7.7%	52.1%	0.0%	41.3%
合計	13	48	2	63
%	20.6%	76.2%	3.2%	100.0%

i：他の地域の人との交流　　$\chi^2(4)= 16.791$, p=0.002

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	8	5	0	13
%	61.5%	38.5%	0.0%	100.0%
全体%	40.0%	11.6%	0.0%	20.0%
どちらというと協力	10	14	2	26
%	38.5%	53.8%	7.7%	100.0%
全体%	50.0%	32.6%	100.0%	40.0%
協力していない	2	24	0	26
%	7.7%	92.3%	0.0%	100.0%
全体%	10.0%	55.8%	0.0%	40.0%
合計	20	43	2	65
%	30.8%	66.2%	3.1%	100.0%

j：地域内での信頼できる人の数　　$\chi^2(2)= 10.375$, p=0.006

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	5	8	0	13
%	38.5%	61.5%	0.0%	100.0%
全体%	50.0%	14.3%	0.0%	19.7%
どちらというと協力	5	22	0	27
%	18.5%	81.5%	0.0%	100.0%
全体%	50.0%	39.3%	0.0%	40.9%
協力していない	0	26	0	26
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	46.4%	0.0%	39.4%
合計	10	56	0	66
%	15.2%	84.8%	0.0%	100.0%

k：地域への愛着　　$\chi^2(2)= 3.748$, p=0.153

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	6	6	0	12
%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
全体%	31.6%	13.3%	0.0%	18.8%
どちらというと協力	8	18	0	26
%	30.8%	69.2%	0.0%	100.0%
全体%	42.1%	40.0%	0.0%	40.6%
協力していない	5	21	0	26
%	19.2%	80.8%	0.0%	100.0%
全体%	26.3%	46.7%	0.0%	40.6%
合計	19	45	0	64
%	29.7%	70.3%	0.0%	100.0%

l：地域の将来について考えること　　$\chi^2(4)= 2.667$, p=0.615

	増えた	変わらない	減った	合計
積極的に協力	5	8	0	13
%	38.5%	61.5%	0.0%	100.0%
全体%	25.0%	17.4%	0.0%	19.4%
どちらというと協力	9	18	0	27
%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
全体%	45.0%	39.1%	0.0%	40.3%
協力していない	6	20	1	27
%	22.2%	74.1%	3.7%	100.0%
全体%	30.0%	43.5%	100.0%	40.3%
合計	20	46	1	67
%	29.9%	68.7%	1.5%	100.0%

[3] 新しい友人

a：生活面での協力　$\chi^2(1)= 3.986$, p=0.046

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	5	18	0	23
%	21.7%	78.3%	0.0%	100.0%
全体%	71.4%	32.7%	0.0%	37.1%
できなかった	2	37	0	39
%	5.1%	94.9%	0.0%	100.0%
全体%	28.6%	67.3%	0.0%	62.9%
合計	7	55	0	62
	11.3%	88.7%	0.0%	100.0%

b：地域協同活動への参加　$\chi^2(2)= 4.117$, p=0.128

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	8	17	0	25
%	32.0%	68.0%	0.0%	100.0%
全体%	61.5%	33.3%	0.0%	38.5%
できなかった	5	34	1	40
%	12.5%	85.0%	2.5%	100.0%
全体%	38.5%	66.7%	100.0%	61.5%
合計	13	51	1	65
	20.0%	78.5%	1.5%	100.0%

c：挨拶・会話　$\chi^2(1)= 0.868$, p=0.352

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	5	19	0	24
%	20.8%	79.2%	0.0%	100.0%
全体%	50.0%	34.5%	0.0%	36.9%
できなかった	5	36	0	41
%	12.2%	87.8%	0.0%	100.0%
全体%	50.0%	65.5%	0.0%	63.1%
合計	10	55	0	65
	15.4%	84.6%	0.0%	100.0%

d：地域の人との付きあい　$\chi^2(2)= 4.319$, p=0.115

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	7	17	0	24
%	29.2%	70.8%	0.0%	100.0%
全体%	63.6%	32.7%	0.0%	37.5%
できなかった	4	35	1	40
%	10.0%	87.5%	2.5%	100.0%
全体%	36.4%	67.3%	100.0%	62.5%
合計	11	52	1	64
	17.2%	81.3%	1.6%	100.0%

e：同世代との交流　$\chi^2(2)= 4.207$, p=0.122

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	5	19	0	24
%	20.8%	79.2%	0.0%	100.0%
全体%	71.4%	34.5%	0.0%	38.1%
できなかった	2	36	1	39
%	5.1%	92.3%	2.6%	100.0%
全体%	28.6%	65.5%	100.0%	61.9%
合計	7	55	1	63
	11.1%	87.3%	1.6%	100.0%

f：異世代との交流　$\chi^2(2)= 19.434$, p=0. 000

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	15	9	0	24
%	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
全体%	78.9%	20.9%	0.0%	38.1%
できなかった	4	34	1	39
%	10.3%	87.2%	2.6%	100.0%
全体%	21.1%	79.1%	100.0%	61.9%
合計	19	43	1	63
	30.2%	68.3%	1.6%	100.0%

g：同じ職業の人との交流　　$\chi^2(2)= 16.264$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	8	15	0	23
%	34.8%	65.2%	0.0%	100.0%
全体%	100.0%	27.8%	0.0%	36.5%
できなかった	0	39	1	40
%	0.0%	97.5%	2.5%	100.0%
全体%	0.0%	72.2%	100.0%	63.5%
合計	8	54	1	63
	12.7%	85.7%	1.6%	100.0%

h：他の職業の人との交流　　$\chi^2(2)= 16.872$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	11	12	0	23
%	47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
全体%	84.6%	25.0%	0.0%	36.5%
できなかった	2	36	2	40
%	5.0%	90.0%	5.0%	100.0%
全体%	15.4%	75.0%	100.0%	63.5%
合計	13	48	2	63
	20.6%	76.2%	3.2%	100.0%

i：他の地域の人との交流　　$\chi^2(2)= 20.164$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	15	9	0	24
%	62.5%	37.5%	0.0%	100.0%
全体%	78.9%	20.9%	0.0%	37.5%
できなかった	4	34	2	40
%	10.0%	85.0%	5.0%	100.0%
全体%	21.1%	79.1%	100.0%	62.5%
合計	19	43	2	64
	29.7%	67.2%	3.1%	100.0%

j：地域内での信頼できる人の数　　$\chi^2(1)= 15.238$, p=0.000

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	8	16	0	24
%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
全体%	100.0%	28.6%	0.0%	37.5%
できなかった	0	40	0	40
%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
全体%	0.0%	71.4%	0.0%	62.5%
合計	8	56	0	64
	12.5%	87.5%	0.0%	100.0%

k：地域への愛着　　$\chi^2(1)= 6.268$, p=0.012

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	11	12	0	23
%	47.8%	52.2%	0.0%	100.0%
全体%	61.1%	27.3%	0.0%	37.1%
できなかった	7	32	0	39
%	17.9%	82.1%	0.0%	100.0%
全体%	38.9%	72.7%	0.0%	62.9%
合計	18	44	0	62
	29.0%	71.0%	0.0%	100.0%

l：地域の将来について考えること　　$\chi^2(2)= 1.422$, p=0.491

	増えた	変わらない	減った	合計
新しい友人ができた	9	16	0	25
%	36.0%	64.0%	0.0%	100.0%
全体%	47.4%	35.6%	0.0%	38.5%
できなかった	10	29	1	40
%	25.0%	72.5%	2.5%	100.0%
全体%	52.6%	64.4%	100.0%	61.5%
合計	19	45	1	65
	29.2%	69.2%	1.5%	100.0%

注：設問 3(5)と設問 1(1)，設問 3(3)，設問 3(6)とのクロス集計表．独立性の検定は無回答を除いたケース．

アンケート調査票

問１　大地の芸術祭について

芸術祭に対するあなた自身の考えをお聞きします。

⑴ 芸術祭に対してどういうイメージをもっていますか？

1. 良い　【→(1-A)へお進みください】
2. どちらともいえない
3. 悪い　【→(1-B)へお進みください】

（1-A）　芸術祭に対して良いイメージをもっている原因は何だと思いますか?

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. アート作品　2. アーティストの活動　3. こへび隊の活動
4. 地域住民の対応　5. 行政担当者の対応　6. 来訪者
7. その他（具体的に　　）

（1-B）　芸術祭に対して悪いイメージをもっている原因は何だと思いますか?

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. アート作品　2. アーティストの活動　3. こへび隊の活動
4. 地域住民の対応　5. 行政担当者の対応　6. 来訪者
7. その他（具体的に　　）

⑵ これまでの芸術祭は新しい地域の魅力を生み出す役割を果たしたと思いますか？

1. 思う　2. どちらともいえない　3. 思わない

⑶ 芸術祭が今後も継続されることについてどう思いますか？

1. 賛成する　2. どちらともいえない　3. 賛成しない

⑷ 芸術祭について、ご意見がありましたらお願いします。

問２　大地の芸術祭を通じた地域の変化について

芸術祭が**あなたの住む地域にもたらした変化**についてお聞きします。なお、「地域」は集落または町内会の範囲と考えてお答えください。

(1) あなたの住む地域は、他の地域に比べて、芸術祭に協力的だと思いますか？

1. 非常に協力的である　2. ある程度協力的である　3. どちらともいえない
4. あまり協力的ではない　5. まったく協力的でない

(2) 芸術祭はあなたの住む地域にどのような変化をもたらしたと思いますか？

1. 好ましい変化をもたらした　【→(2-A)へお進みください】
2. どちらともいえない
3. 好ましくない変化をもたらした　【→(2-B)へお進みください】

（2-A）芸術祭が地域にもたらした好ましい変化の原因は何だと思いますか?

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. アート作品　2. アーティストの活動　3. こへび隊の活動
4. 地域住民の対応　5. 行政担当者の対応　6. 来訪者
7. その他（具体的に　　）

（2-B）芸術祭が地域にもたらした好ましくない変化の原因は何だと思いますか?

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. アート作品　2. アーティストの活動　3. こへび隊の活動
4. 地域住民の対応　5. 行政担当者の対応　6. 来訪者
7. その他（具体的に　　）

(3) 芸術祭があなたの地域にもたらした変化で、あてはまるものに○をつけてください。

項 目	増えた	変わらない	減った
A. 地域活動（集会所の清掃、神社や寺の管理、行事の運営等）	1	2	3
B. 地域活動への参加人数	1	2	3
C. 地域内でのあいさつ・会話	1	2	3
D. 地域内での女性の活躍	1	2	3
E. 地域内での高齢者（65 歳以上の方）の活躍	1	2	3
F. 地域内の活気	1	2	3
G. 地域内のまとまり	1	2	3

問３　大地の芸術祭を通じたあなた自身の変化について

芸術祭があなた自身にもたらした変化についてお聞きします。

⑴ 芸術祭とはどのような関わりがありますか？（過去、現在問わず）

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 作品やイベントの見学
2. 勤務先の仕事
3. 地域での芸術祭関連行事への協力
4. 資産の貸与（土地・家屋・資材等）
5. ワークショップへの参加
6. 来訪者への作品案内
7. 作品管理
8. アーティストへの協力
9. こへび隊への協力
10. その他（具体的に　　）
11. 個人的な関わりは全くない【→（10）へお進みください】

⑵ （1）で選んだ関わりをもつことになった「きっかけ」を次の中から選んでください。

※あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 町内会や集落で仕事を頼まれたから
2. 勤務先の仕事だから
3. 友達に誘われたから
4. 家族に誘われたから
5. 行政の担当者に誘われたから
6. 作家に誘われたから
7. こへび隊に誘われたから
8. 興味があったから
9. その他（具体的に　　）

⑶ 地域内の他の人と比べて、あなた自身は積極的に協力しましたか？

1. 積極的に協力した
2. どちらかというと協力した
3. どちらかというと協力していない

⑷ 芸術祭を通じて、あなた自身の価値観や考え方は広がりましたか？

1. 広がった
2. 変わらない
3. 狭くなった

⑸ 芸術祭が**あなた自身にもたらした変化**で、あてはまるものに○をつけてください。

項 目	増えた	変わらない	減った
A. 相談するなど、地域の人との生活面の協力	1	2	3
B. 地域共同活動への参加 （例えば、集会所の清掃、神社や寺の管理、行事の運営等）	1	2	3
C. 地域内でのあいさつ・会話	1	2	3
D. 地域内の人たちとのつきあい	1	2	3
E. あなたと同じ年齢層・世代の人たちとの交流	1	2	3
F. あなたと違う年齢層・世代の人たちとの交流	1	2	3
G. あなたと同じ職業や所属の人たちとの交流	1	2	3
H. あなたと違う職業や所属の人たちとの交流	1	2	3
I. 他の地域の人たちとの交流	1	2	3
J. 地域内で信頼できる人の数	1	2	3
K. 地域への愛着	1	2	3
L. 地域の将来について考えること	1	2	3

⑹ 芸術祭を通じて新しい知り合いができましたか？

1. できた　【→（7）へお進みください】
2. できなかった　【→（10）へお進みください】

⑺ 芸術祭を通じてできた新しい知り合いのうち、**最も頻繁に交流のある人**はどんな人ですか？

※あてはまるもの１つに○をつけてください。

1. 地域内の人　2. 妻有圏域内の人（地域以外）　3. こへび隊
4. アーティスト　5. 来訪者
6. その他（具体的に　　）

⑻（7）で１つ選んだ、新しい知り合いとの関係・つきあいはどのように続いていますか？

※最も頻繁に行われているもの１つに○をつけてください。

1. 相手の家を訪ねる　2. 自分の家に遊びに来る　3. 電話で話す
4. 手紙で連絡をとる　5. メールで連絡をとる
6. その他（具体的に　　）

⑼（8）で１つ選んだ、新しい知り合いとの関係・つきあいはどれくらいの頻度ですか？

1. 毎日～週に数回　2. 週に１回～月に数回
3. 月に１回～年に数回　4. 年に１回～数年に１回

⑽ 芸術祭があなたの住む地域やあなた自身にもたらした変化について、ご意見がありましたらお願いします。

問４　あなたの住む地域について

あなたの住む地域について、あなた自身がどう考えているかをお聞きします。なお、「地域」は集落または町内会の範囲と考えてお答えください。

(1) あなたの住む地域は、地域住民同士の交流があると思いますか？

1. とても思う　2. ある程度そう思う　3. どちらともいえない
4. あまり思わない　5. まったく思わない

(2) あなたの住む地域は、他の地域の人たちとの交流があると思いますか？

1. とても思う　2. ある程度そう思う　3. どちらともいえない
4. あまり思わない　5. まったく思わない

(3) あなたの住む地域で信頼できる人はどの程度いますか？

1. ほとんど全ての人　2. 半分程度の人　3. 少数の人　4. 誰もいない

(4) あなたの住む地域は、他の地域と比べて、まとまりがあると思いますか？

1. とても思う　2. ある程度そう思う　3. どちらともいえない
4. あまり思わない　5. まったく思わない

(5) あなたの住む地域に愛着がありますか？

1. とても愛着がある　2. ある程度愛着がある　3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない　5. まったく愛着がない

(6) あなたの住む地域での生活に満足していますか？

1. とても満足がある　2. ある程度満足がある　3. どちらともいえない
4. あまり満足していない　5. まったく満足していない

(7) 今住んでいる地域にこれからも住み続けたいですか？

1. 住み続けたい　2. どちらともいえない　3. 住み続けたくない

問５　社会に対する意識について

社会に対するあなた自身の意識についてお聞きします。答えにくい設問は無理に答えていただかなくても結構です。

⑴ 現在、あなたは芸術祭以外の地域共同活動（集会所の清掃、神社や寺の管理、行事の運営等）にどの程度参加していますか？

1. 積極的に参加　2. 可能な範囲で参加　3. あまり参加しない
4. まったく参加しない　5. 地域活動自体ない

⑵ あなたは、一般的に、他人を信頼できますか？あてはまるものに○をつけてください。

ほとんどの人は信頼できる	多くの人は信頼できる	半分程度の人は信頼できる	多くの人は信頼できない	ほとんどの人は信頼できない	わからない
（最もできる）		（中間）		（最もできない）	
1	2	3	4	5	6

⑶ 地域の人とのつきあいはどの程度ありますか？

1. 互いに相談するなど、生活面でも協力し合うようなつきあい
2. 日常的に立ち話をするつきあい
3. あいさつ程度のつきあい　4. つきあいはまったくしていない

⑷ あなたがつきあいをしている地域内の人はどれくらいいますか？

1. 地域のほぼすべての人と面識・交流がある
2. 地域の半分程度の人と面識・交流がある
3. 地域のごく少数の人と面識・交流がある
4. 地域の人とほとんど面識・交流がない

⑸ 学校や職場以外のところで、友人・知人、親戚・親類、職場の同僚とのつきあいを、普段どれくらいの頻度でしていますか？あてはまるものに○をつけてください。

項 目	毎日～週に数回	週に１回～月に数回	月に１回～年に数回	年に１回～数年に１回	まったくない
A. 友人・知人	1	2	3	4	5
B. 親戚・親類	1	2	3	4	5
C. 職場の同僚	1	2	3	4	5

最後に、あなたの属性についてお聞きします。これは統計的に処理するために使用し、個人を特定するためには使用しませんので、できるだけお答えください。

(1) あなたの性別に○をつけてください。

1. 男　2. 女

(2) おいくつですか？

1. 20 歳代　2. 30 歳代　3. 40 歳代　4. 50 歳代
5. 60～64 歳　6. 65～74 歳　7. 75～84 歳　8. 85 歳以上

(3) あなたの職業にあてはまるものを１つだけ○をつけてください。

1．専業主婦・主夫　2．民間企業・団体
3．自営業又はその手伝い　4．公務員・教員　5．パート・アルバイト
6．学生　7．農業　8．漁業　9．林業
10．年金生活者
11．その他（具体的に　　）

(4) 同居しているのはあなたを含めて何人ですか？

（　　人）

(5) あなたと同居している家族にあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 配偶者　2. 子ども　3. 子どもの配偶者　4. 孫・ひ孫　5. 祖父母
6. 自分の親　7. 配偶者の親　8. 自分の兄弟姉妹　9. 配偶者の兄弟姉妹
10. その他（具体的に　　）

(6) 今住んでいる地域に現在まで何年住んでいますか？（合計で）

1. 2 年未満　2. 2 年～5 年未満　3. 5 年～10 年未満
4. 10 年～20 年未満　5. 20 年～30 年未満　6. 30 年～40 年未満
7. 40 年～50 年未満　8. 50 年以上

(7) 今住んでいる地域で生まれましたか？

1. はい　2. いいえ

(8) あなたが受けた学校教育にあてはまるものに○をつけてください。

1. 中学校（旧制小学校・高等小学校）まで　2. 高校（旧制中学校・高等女学校）まで
3. 専修学校・短大（旧制高校、専門学校、師範学校）まで
4. 大学（旧制大学）まで　5. 大学院まで